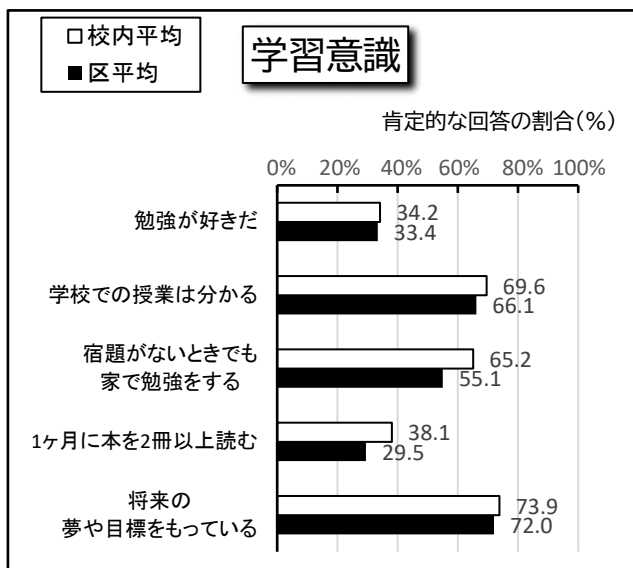
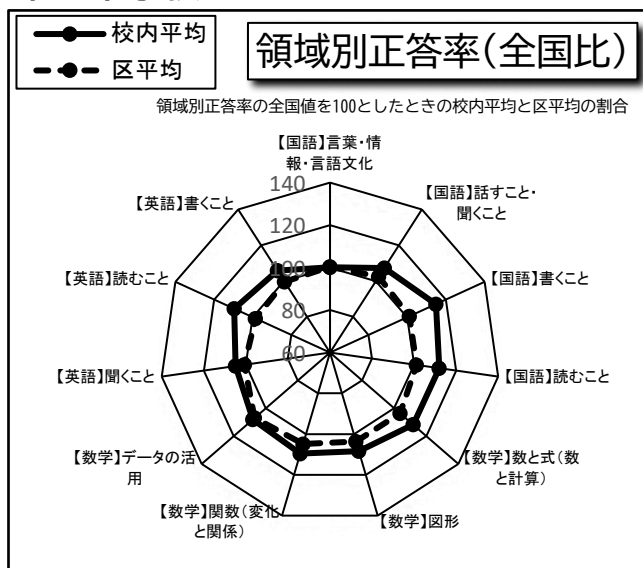


各校の調査結果概要と 学力向上への取り組み

中学校

第一	1	栗島	19
第四	2	江南	20
第五	3	江北桜	21
第六	4	鹿浜菜の花	22
第七	5	新田	23
第九	6	千寿青葉	24
第十	7	千寿桜堤	25
第十一	8	竹の塚	26
第十二	9	西新井	27
第十三	10	花畑	28
第十四	11	花畑北	29
青井	12	花保	30
伊興	13	東綾瀬	31
入谷	14	東島根	32
入谷南	15	湊江	33
扇	16	谷中	34
加賀	17	六月	35
蒲原	18		

第一中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	77.6	64.7	73.6	76.9	76.9	88.9	95.8	63.9	65.3	67.0	53.9	64.3
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	72.8	71.4	71.4	75.3	86.3	95.9	80.8	63.3	60.8	59.0	69.9	65.1
平均正答率(R8)	67.9	60.2	69.2	67.0	63.2	91.3	72.1	63.5	62.0	66.1	55.3	60.7
平均正答率(R7)	71.9	64.3	67.2	67.8	73.4	93.5	76.5	58.2	59.3	68.8	64.0	64.0

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

国語科については、1学年の平均正答率は足立区、全国平均をそれぞれ、2.0ポイント、4.2ポイント上回っている。特に「書くこと」「読むこと」ではD層のみ大きな開きがある。2学年の平均正答率は足立区、全国平均をそれぞれ、5.2ポイント、5.3ポイント上回っている。また、「書くこと」「読むこと」ではD層のみ大きな開きがある。

数学科については、1学年では、「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」すべての領域において各層に開きがある。2学年では、「関数」「データの活用」の領域で上位層、下位層と二極化している。3学年では、1学年と同様の傾向がみられる。

英語科については、1学年の平均正答率は足立区、全国平均をそれぞれ、2.3ポイント、2.1ポイント上回っている。「書くこと」に習熟の差があるが、「聞くこと」「読むこと」については差が見られない。2学年の平均正答率は足立区、全国平均をそれぞれ、7.3ポイント、7.2ポイント上回っている。「読むこと」「書くこと」では、D層のみ大きな開きがある。3学年では「読むこと」「書くこと」に各層ごとで開きがみられる。

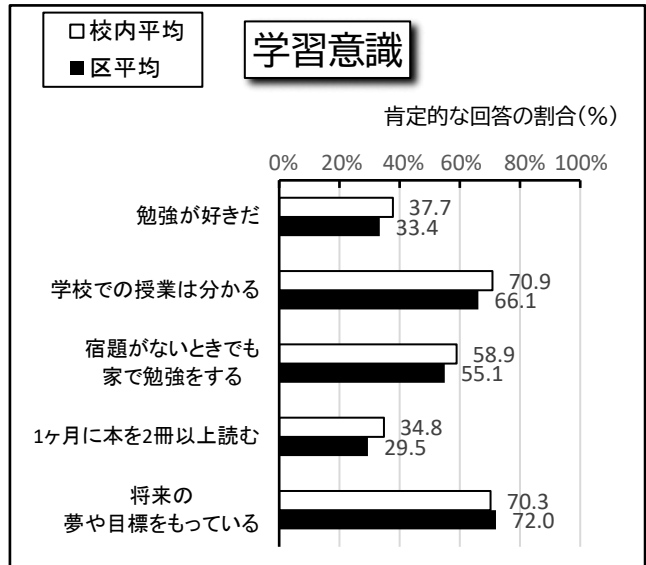
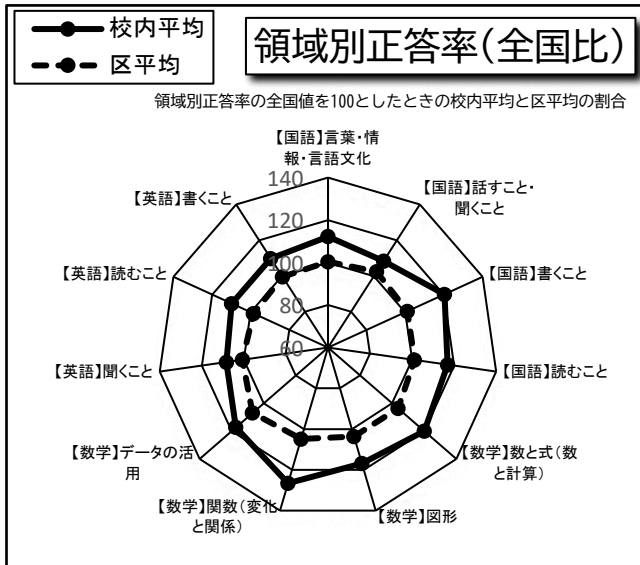
学校による学力向上への主な取り組み

「足立スタンダード虎の巻」を全教員の授業観の根底に据え、一時間の授業の構造化と基礎・基本の確実な定着を図る。その上で、今年度の研究の中核として「学習者主体の授業への転換」を掲げる。従来の教員主導の伝達型授業から脱却し、生徒が自ら問いを立て、協働的に解決していく学びのプロセスを構築する。

授業を支えるICT機器の活用については、それを単なる使用にとどめるのではなく、一人ひとりの思考を可視化し、対話を深めるための「不可欠な手段」として位置付ける。少人数・習熟度別指導やSP表などのデータに基づく個別補習、日々の短作文や作問トレーニングなどの実践においても、ICT機器を文房具のように日常使いしながら、生徒主体の深い学びを実現していく。

さらに、これら校内研究の成果や学力調査の個人票を保護者と緊密に共有し、学校での主体的な学びが家庭での自律的な学習習慣へとつながるよう、学校と家庭が一体となったアプローチを展開する。

第四中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	87.1	76.7	79.2	85.8	90.9	94.4	94.1	71.5	68.8	81.2	66.7	73.2
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	82.7	74.3	81.6	86.5	82.0	94.5	93.5	75.5	74.6	67.6	64.6	74.6
平均正答率(R8)	72.9	66.3	70.9	73.1	71.1	92.8	73.9	64.5	62.2	71.6	62.4	64.8
平均正答率(R7)	75.4	66.3	74.8	72.3	71.8	92.2	82.7	64.8	67.4	71.4	60.9	70.3

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合〔目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)〕

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合〔正答数÷出題数×100(%)〕)の平均値

「学習定着度調査」分析結果

領域別正答率(全国比)では国語の「書くこと」や数学の「関数(変化と関係)」などの領域で区の平均を大きく上回った。令和8年度における各教科の通過率は76.7～87.1%であり、基礎・基本の定着は堅調である。特に現3年生の国語で81.2%、現2年生の国語で94.1%と高水準である。また、学校全体の平均正答率は令和7年度と比較し、差が4ポイント以内となっており、概ね昨年度と同水準を維持している。授業をはじめとする学習指導の実践が確かな学力の定着に繋がり、発展的な学びに向かう姿勢を全校で育てていると考える。今後は全校でA Iドリルの有効活用などにより、全教科80%以上の通過率を目標とする。

意識調査では「学校での授業は分かる」が区平均を4.8ポイント上回り、「宿題がないときでも家で勉強をする」も3.8ポイント高い。一方「将来の夢や目標をもっている」の割合が区平均を1.7ポイント下回っており、日々の学習活動と一人ひとりの将来を結び付ける指導が本校の課題である。

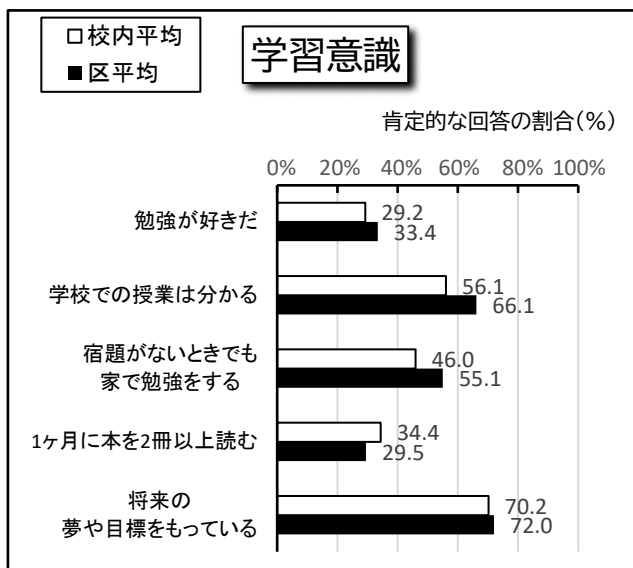
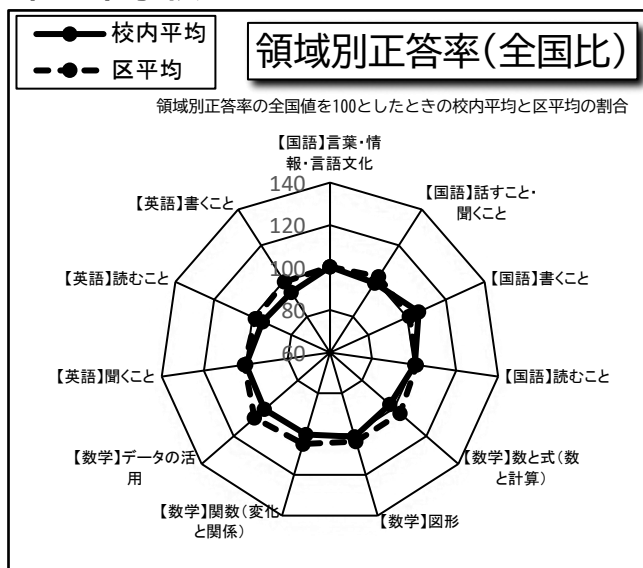
学校による学力向上への主な取り組み

基礎・基本の確実な定着を図るため、日常的に、A Iドリルによる個別最適な学習支援を充実させ、苦手分野の克服と確実な学力の底上げを図る。さらに、朝学習と連動し5教科の重点学習と確認テストを行う「学習WEEK」や定期考査前の質問教室を実施する。また、基礎問題と発展問題を選択して取り組む放課後の「スタディプラス」や長期休業中の7日間のサマースクールなどの時間を確保し、生徒一人ひとりの習熟に応じたきめ細かな個別指導を行う。

思考力・判断力・表現力を高めるため、探究型の授業を実施し、ペアワークやグループワークをはじめ、自己選択・自己決定を促す多様な形態の活動を取り入れる。あわせてタブレット端末を活用し、多様な考えの可視化を通し、互いの思考を広げ深める工夫や、生徒の自己調整力を高める工夫を行う。

生徒が将来の具体的な目標をもち、高い意欲で主体的に学習に取り組む態度を育成するため、職場体験活動や進路学習などのキャリア教育を強力に推進する。全校体制のきめ細かな指導を通じて、自らの未来を主体的に切り拓く力や豊かな職業観を確実に育てていく。

第五中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	72.4	59.1	61.3	73.6	66.7	84.7	79.6	57.1	46.9	65.6	52.3	46.2
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	65.6	52.5	63.3	66.7	49.2	85.7	78.5	59.1	58.5	48.1	48.1	42.3
平均正答率(R8)	64.8	54.9	61.8	66.7	57.7	87.8	63.8	54.9	51.0	63.4	51.5	52.0
平均正答率(R7)	67.8	54.8	63.3	63.0	55.0	88.6	74.3	56.1	57.3	65.3	53.0	51.6

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合〔目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)〕

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合〔正答数÷出題数×100(%)〕)の平均値

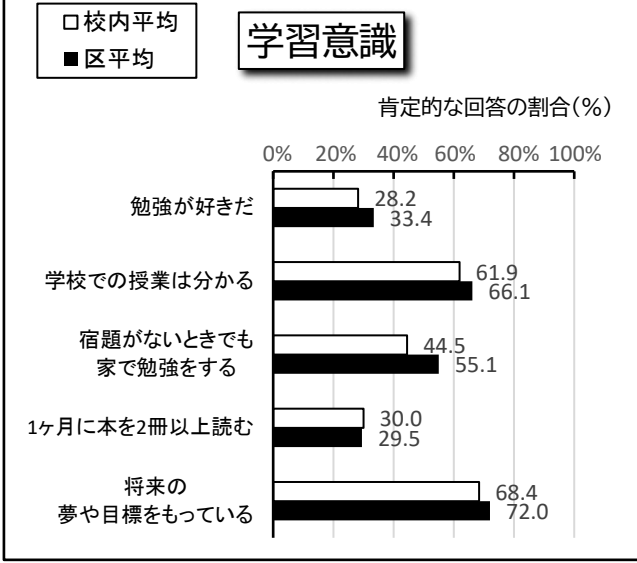
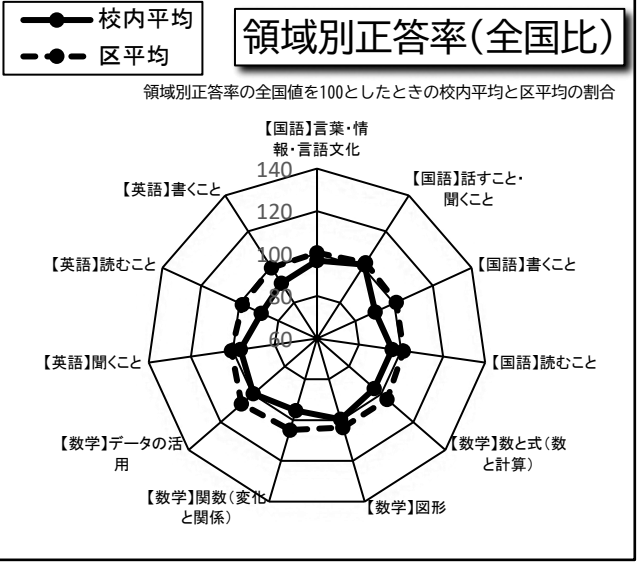
「学習定着度調査」分析結果

- 【国語】平均正答率64.8%、校内通過率72.4%である。どの学年も書くことに関する問題の正答率は比較的高いが、「話すこと・聞くこと」は低い傾向にある。授業内で話す・聞く活動をより充実させ、話を聞きながら必要な情報を整理する力や、論理的に相手にわかりやすく話す力を育てていく。
- 【数学】平均正答率54.9%、校内通過率59.1%である。学年が上がるにつれて正答率、通過率ともに低くなっている。領域別では「数と式」や「データの活用」に課題があるため、習熟度別少人数やサマースクール、放課後対策などを活用して基礎・基本の徹底および充実を図っていく。
- 【英語】平均正答率61.8%、校内通過率61.3%である。学年が上がるにつれて「読むこと」「書くこと」に課題が見られるため、英語学習の基礎である音から文字への接続を意識した指導を継続する。また、単語や文法の定着だけでなく、自分の考えを正確な語順で表現できるよう、書く活動の充実と無解答の減少に向けた指導を行う。

学校による学力向上への主な取り組み

- 足立スタンダード（虎の巻）を基にした「わかる授業」の共通実践およびICTを活用するとともに、数学、英語では少人数指導を展開し、個に応じたきめ細かい指導を行う。
- 読書習慣および読解力を付けるために、毎日始業前の時間を活用して朝読書に取り組む。また、年3回「読書Week」を設定し、生徒の読書に対する意欲向上を図っていく。
- 基礎・基本の定着を図るために、全教科において放課後定期考査対策を行う。また、漢字・数学・英語検定を積極的に実施し、土曜スクールで模擬テストなどに取り組む。
- 学習支援ボランティアを活用して、毎週金曜日の放課後に自主学習教室を実施する。
- 国語、数学、英語の学習コンテストをそれぞれ年1回行い、事前学習を充実させるとともに、基礎・基本の定着を図る。
- A Iドリルの課題や家庭学習への取り組みを充実させ、自学自習の習慣を身につけさせる。
- 「教室の前方には何も貼らない・置かない」とし、生徒が集中して学習に取り組めるよう、教室環境の整備を図る。

第六中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	68.8	58.2	58.1	64.6	56.4	79.5	81.1	74.2	55.7	60.6	44.7	42.6
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	68.6	67.5	65.7	72.4	66.3	84.7	82.6	75.0	60.9	50.0	61.1	50.0
平均正答率(R8)	62.4	53.5	57.6	60.9	51.0	84.6	65.4	62.4	51.7	60.8	47.7	49.1
平均正答率(R7)	67.6	60.2	64.8	64.8	59.9	88.4	73.4	63.8	58.3	64.9	57.0	55.3

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値
◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合〔目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)〕
◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合〔正答数÷出題数×100(%)〕)の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【全校】全ての教科の平均正答率で昨年度を下回る結果となったが、2年生数学では、全国平均を6.2ポイント上回ることができた。

【国語】「話すこと・聞くこと」の領域で区平均とほぼ同じ結果となった。3年生は、通過率が前年度よりも10.6ポイント上昇した。2年生は昨年度(1年次)よりも通過率が8.7ポイント上昇した。

【数学】「図形」の領域で区平均に接近しているが、他の領域では区平均を下回った。2年生は、平均正答率で全国平均を6.2ポイント、区平均を3.8ポイント上回った。

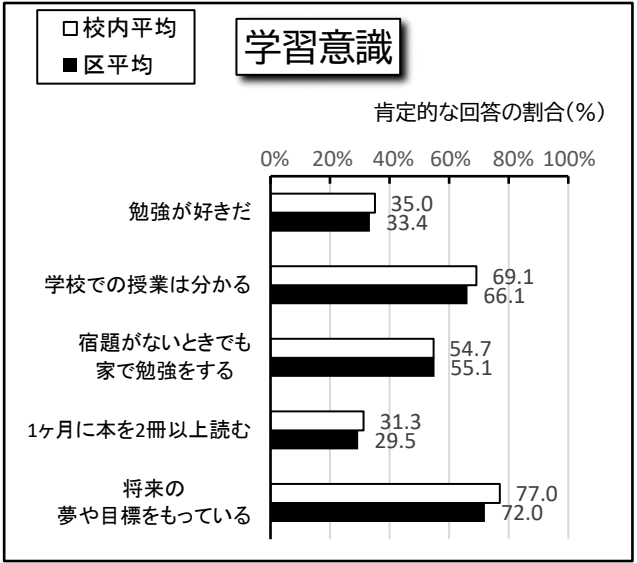
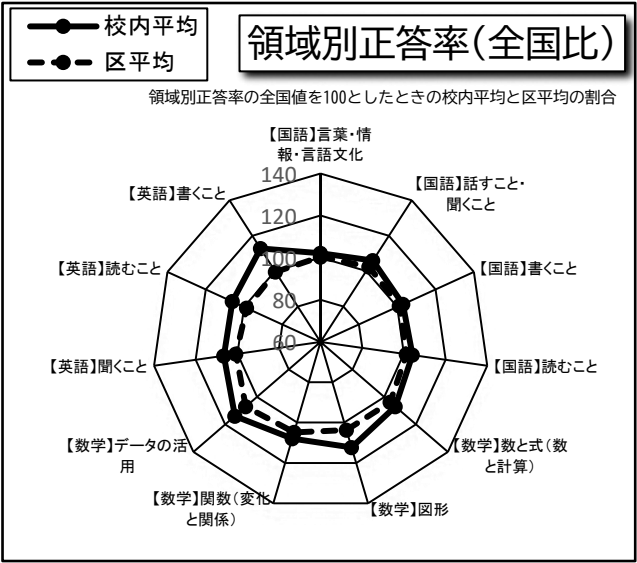
【英語】「聞くこと」の領域で区平均に接近しているが、他の領域では区平均を下回る結果となった。平均正答率、通過率ともに昨年度を下回った。

【意識調査】令和6年度より、本校では「朝読書」に取り組んだ。「1ヶ月に本を2冊以上読む」の項目では、肯定的回答が令和6年度28.4%→7年度30.2%→8年度30.0%と推移している。また、家庭学習に関する意識が低下している。

学校による学力向上への主な取り組み

- 「足立スタンダード」に基づく授業実践により、ねらいの明確化と振り返りを徹底し、分かる喜びと学びへの自信を育てる。
- 基礎学力の定着のために、放課後補充教室、授業・家庭におけるA Iドリルの有効活用、サマースクール、中1夏季勉強合宿(通所型)を充実させる。
- 漢字・数学・スペリングの各学習コンテストを実施し、反復学習を徹底する。
- 一人1台端末の活用を推進し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実践する。
- 基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、それらを活用して課題を解決し、自らの考えを表現する力を育む。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を推進し、学習者が自ら問いを立て、探究する学習活動を充実させる。
- 小中連携教育や地域連携を通し、社会の変化に対応したキャリア教育を推進し、主体的に進路を選択する能力を育成する。

第七中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	74.8	66.4	78.6	78.3	82.5	93.3	83.1	63.7	72.6	63.2	53.6	70.4
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	73.5	71.0	77.0	73.8	73.8	83.2	82.3	71.8	74.2	63.8	67.2	73.3
平均正答率(R8)	66.4	60.3	69.8	68.6	64.2	92.0	65.7	60.0	59.9	65.1	56.4	66.2
平均正答率(R7)	71.3	64.1	73.1	66.8	64.4	89.0	76.9	65.0	67.2	70.3	63.0	68.5

- ◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値
- ◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合〔目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)〕
- ◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合〔正答数÷出題数×100(%)〕)の平均値

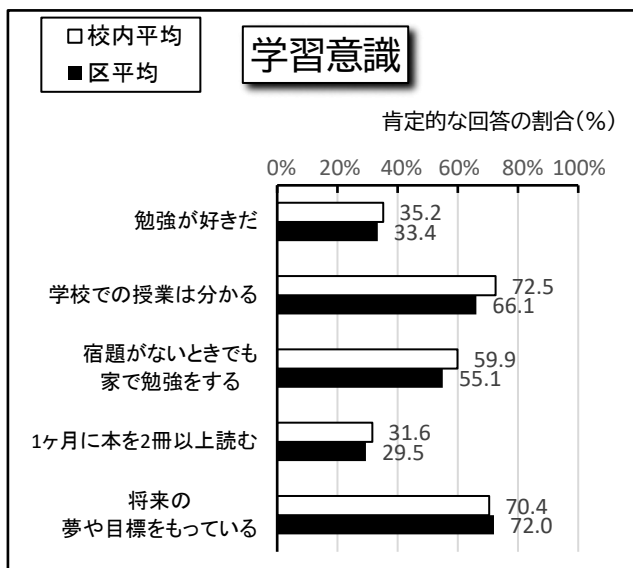
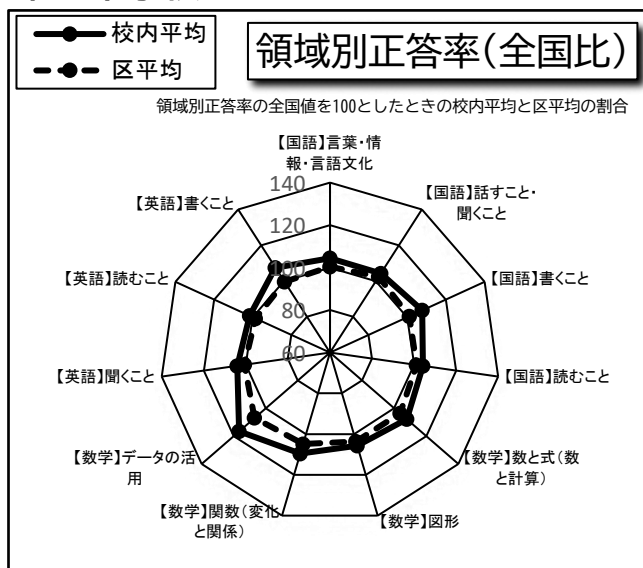
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の通過率では、国語・英語は前年度を1ポイント程度上回ったが、数学は前年度を4.6ポイント下回った。
- 国語は漢字の書きと読解において差が大きくなっている。1、3年生は正答率が区平均を上回った。2年生は通過率が1年次から約10ポイント上昇した。
- 数学は各学年の正答率で区の平均を上回っているが、学力層による正答率の差が大きくなっていることが課題である。特に3年生の関数で学力層による差が大きくなっている。
- 英語は領域別正答率でみると、「書くこと」で区平均を大きく上回っている。主体的に学習に取り組む態度に関する質問項目を見ると、英語で話すことについての項目の肯定群回答割合が高い傾向が見られる。
- 学習に対する意識調査では、「将来の夢や目標をもっている」について、昨年度より約10ポイント上回っている。

学校による学力向上への主な取り組み

- 漢字・計算・スペリングコンテストを全校で実施し、コンテスト週間には朝学習で集中して学習に取り組むことにより、基礎の定着と学習意欲の向上を図る。A Iドリルの活用により、一人一人の習熟度に応じた学習を推進する。
- 朝読書の取り組みを通して、読書習慣を身につけさせるとともに、読解力の向上を図る。学校図書館の充実と授業での活用を進めるほか、あだち電子図書館も活用して、読書に親しむ習慣の定着を図る。
- 数学では、習熟度別少人数授業を活かしてきめ細やかな指導を行う。足立スタンダードに基づく問題解決的な学習を通して、主体的に学習する態度を育む。
- 英語では少人数授業でペアやグループでの活動により発話量を増やして英語表現に親しむと共に、英語を用いた自己表現の練習を積み重ね、書くことへの自信をつけさせる。
- キャリア教育の充実を通して、将来の夢や生き方を考えることを通して、学習に取り組む意欲を育む。

第九中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	76.2	69.1	77.4	75.5	72.4	91.4	88.2	70.1	66.1	64.5	63.6	70.2
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	69.6	65.5	74.2	71.5	71.5	89.2	88.8	71.2	68.0	52.6	55.8	66.7
平均正答率(R8)	67.5	60.2	69.0	66.9	59.8	91.1	70.4	61.6	58.6	65.2	59.4	61.2
平均正答率(R7)	70.3	59.8	70.8	65.8	63.6	91.0	78.5	62.6	62.4	67.4	54.1	67.0

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

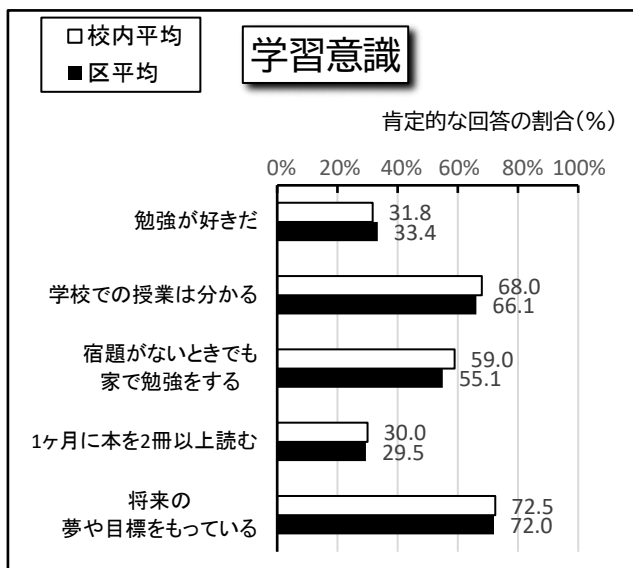
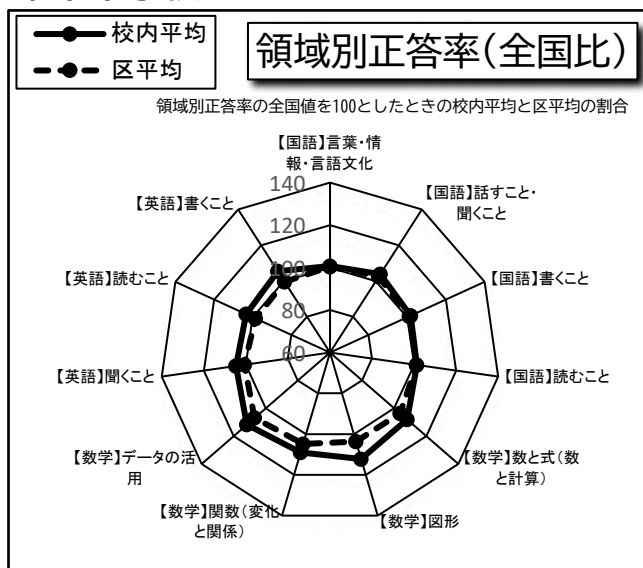
今年度、各教科を合計した学校全体の通過率は約74.2%となり、昨年度の約69.8%を4.4ポイント上回った。昨年度と比べて全教科で3ポイント以上上昇しており、特に国語では6.6ポイント上昇した。3年生は昨年度と比べると、数学は7.8ポイント、英語は3.5ポイント、国語においては11.9ポイント上昇した。各教科別における通過率は昨年度と比較して、1年生と3年生で全ての教科において上回った。一方、2年生では全教科において下回っており、英語は1.9ポイントの減少となった。領域別正答率は、数学の「データの活用」で大きく上回ることができた。

学習意識の結果を見ると、「学校での授業は分かる」と答えた生徒の割合が昨年度より、2.3ポイント上昇した。「勉強が好きだ」と答えた生徒の割合は区内平均を上回っているが、昨年度より、1.3ポイント下回った。

学校による学力向上への主な取り組み

- 国語では、ペアやグループでの対話活動、スピーチや発表、話し合い活動などを継続的に取り入れ、話す・聞く機会を日常的に設定し、理由を述べることや相手の意見を踏まえて応答する活動を通し、伝え合う力や、豊かな表現力を身につけさせる。
- 数学では、今年度より全学年において少人数指導を実施しているため、今まで以上に一人ひとりの理解度を把握し、理解が不十分な生徒への個別対応を行う。また、作図を通して性質や関係を捉え、根拠を基に考え、説明する力を育成するとともに、学んだ内容を日常生活で活用する力を養う。
- 英語では、語句や文法の基礎・基本の定着を図るとともに、目的に応じて英文を読み、必要な情報を捉える活動を充実させる。音読や読解の繰り返しを通して、内容を正確に理解し、自分の考えと関連付けながら読む力を育成する。
- 各教科でA Iドリルを活用した学習や課題等の取り組みを継続して行う。また、各学年で定期的にA Iドリルの取り組みの上位を発表し、生徒の学習意欲向上に繋げる。
- 今年度は基本的に朝読書を実施し、読書習慣の確立を目指していく。試験前には朝学習を実施し、A Iドリルの活用や自分自身の課題を捉え、取り組み力を伸ばしていく。

第十中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	75.1	66.7	73.7	76.8	79.7	90.6	84.6	59.6	66.7	62.3	60.9	63.8
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	72.3	72.2	75.4	73.2	68.5	91.1	78.4	80.7	63.6	65.2	68.3	68.3
平均正答率(R8)	65.6	60.5	67.7	66.3	63.3	91.3	65.7	58.3	60.3	64.9	59.7	60.5
平均正答率(R7)	68.7	65.2	71.5	64.9	65.1	91.9	72.9	68.8	61.4	69.1	62.1	66.1

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合〔目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)〕

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合〔正答数÷出題数×100(%)〕)の平均値

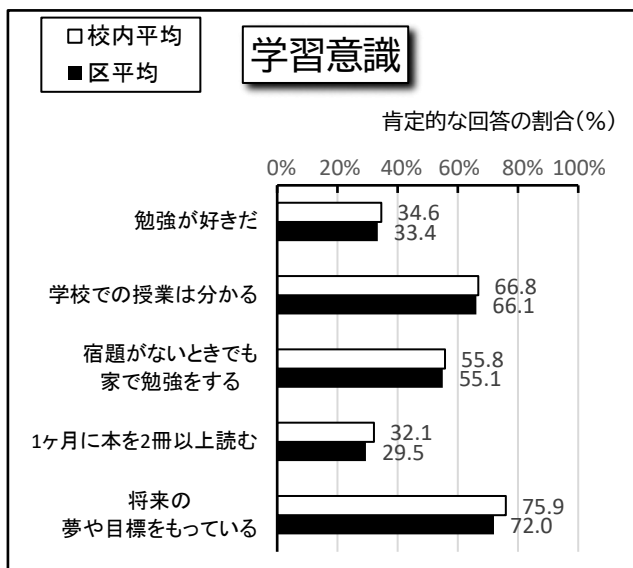
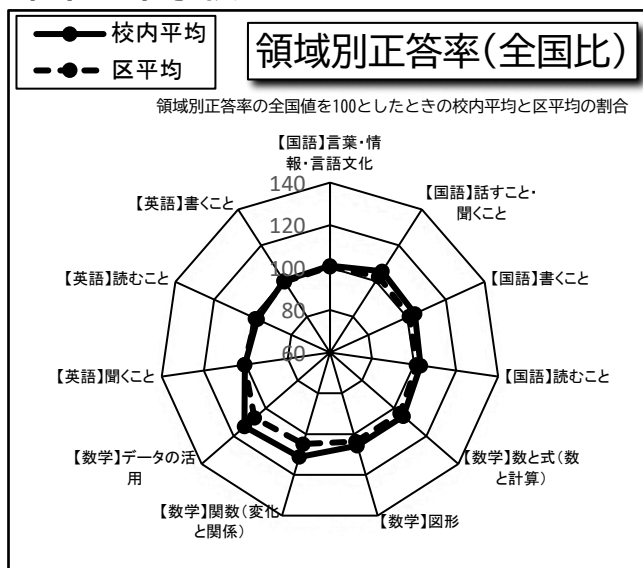
「学習定着度調査」分析結果

- ・学校全体の正答率は、全教科において区の平均を上回っている。
- ・学校全体の通過率は、英語において全学年が区の平均を超えている。学年・教科別に見ると特に3年生の数学、英語では約7～9ポイント上回り、区の平均を大きく超えている。
- ・領域別正答率では、3年生の全教科で全ての領域において区平均を超えている。1年生では数学、2年生では英語が全領域において区平均を超えている。
- ・3年生の同集団で昨年度と比較すると、数学の通過率は下がっているものの、多くの問題で平均正答率が区の約5～10ポイント上回っている。
- ・学習意識調査では、約70%の生徒が「学校での授業は分かる」と答えている。
- ・「勉強が好きだ」と答えている生徒は区平均を下回っているものの、昨年度の自校の結果より3.5ポイント上昇している。
- ・総合的な学習の時間や各教科の学習を通して、進路学習を充実させていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・国語：定期的な漢字テストを実施し、漢字の読み、書きを中心に基礎的な知識を定着させていく。正確に読み取る力をつけ、条件に従って回答する力を積み重ねていく。
- ・数学：授業の始めに既習の単元の復習を継続して積み重ね、新出事項との関連を確認しながら指導を進める。
- ・英語：4技能の活動をバランスよく取り入れ、語順や動詞の変化を意識させながら力をつける。ポートフォリオを活用し、基本文等の短文を繰り返し練習させ、定着させる。
- ・朝読書の時間を設け、本を読む習慣をつけるとともに「読む力」の向上につなげる。
- ・卒業までに下記の最大限の学力を身につけさせる。
 国語：基本的な漢字の読み書き：読み 中学校学習の1623字、書き 小学校学習の1026字程度
 数学：正負の数、文字式、方程式の計算：都立入試大問1（基礎・基本の問題）程度の理解
 英語：1200語程度の単語の定着：CEFR A1（英検3級）程度の理解
 社会：地歴公民分野の重要語句の理解：重要語句、基本的な地名の理解
 理科：科学に関する基礎的な概念の理解：都立入試大問1（基礎・基本の問題）程度の理解

第十一中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	77.2	66.7	64.3	71.1	77.0	85.2	87.8	71.8	54.3	68.6	49.6	57.7
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	71.8	66.7	65.3	73.7	73.6	85.3	82.5	62.2	55.9	60.8	62.5	50.6
平均正答率(R8)	66.5	60.0	62.3	63.7	59.4	88.6	67.7	65.4	53.9	67.5	53.4	57.4
平均正答率(R7)	68.2	61.0	65.6	64.3	65.9	89.8	75.3	57.0	56.7	66.7	57.9	55.9

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

学習意識調査では、全ての項目で肯定的回答をする生徒の割合が区平均を上回っており、本校は学習に対して前向きな生徒が多いことがわかる。全体の平均正答率は、全学年で全国値を上回る結果となっているが、昨年度と比べると3教科とも下回っている。通過率では、昨年度よりも2年生の数学が9.6ポイント、3年生の国語で7.8ポイント上回る結果となった。

【国語】平均正答率を区平均と比較すると、1年生-1.3ポイント、2年生+0.8ポイント、3年生+4.1ポイントであった。1年生は書くこと・読むことに課題が見られ、学習習慣の確立や授業内容の定着を図る指導の工夫が必要である。

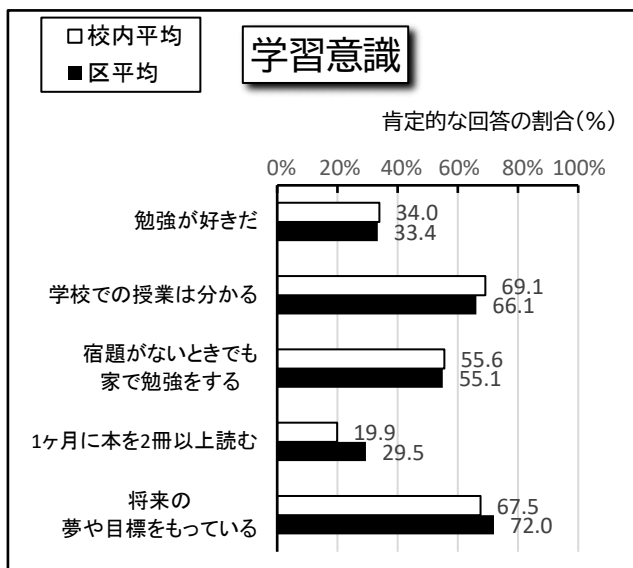
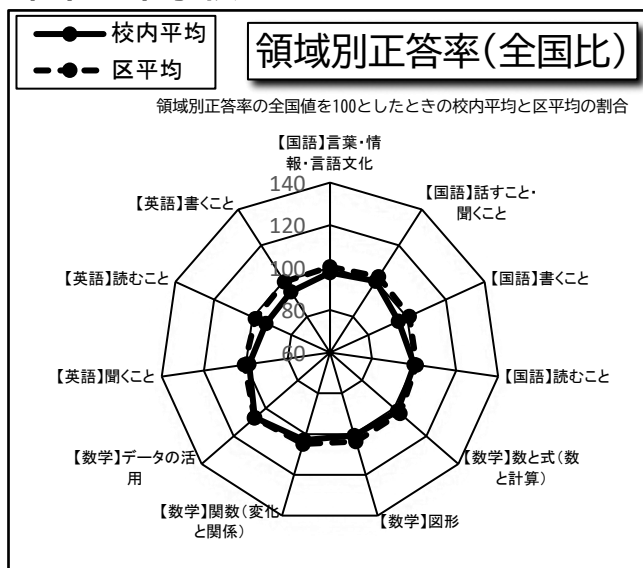
【数学】平均正答率を区平均と比較すると、1年生-1.1ポイント、2年生+6.8ポイント、3年生-0.4ポイントであった。2年生は応用も+9ポイントであり、A Iドリルの活用など毎日の実践が学力定着や発展的な学びにつながっている。

【英語】平均正答率を区平均と比較すると、1年生-0.4ポイント、2年生-0.8ポイント、3年生+1ポイントであった。今後はC層・D層に向けての学習習慣の定着や指導の工夫・対策が必要である。

学校による学力向上への主な取り組み

○朝学習：A Iドリルを活用した学習や朝テストを実施し、課題が見られる生徒は翌週再テストを実施している。○朝読書・読書week：読解力の向上や読書習慣を身につけさせるため、朝読書の取り組みや読書週間を設けて、本にふれる機会を設けている。○家庭学習の充実：5教科を中心に、基礎・基本をしっかりと定着させるため「家庭学習ノート」を毎日提出している。○補充教室：毎週金曜日に朝テストを行い、翌週課題が見られる生徒を対象に実施する。また、定期考査前の放課後に質問教室や補習を行い、個別の支援を行う。○相互授業観察：学びのブラッシュアップ11中として、足立スタンダード虎の巻に基づいたICTを活用した授業の相互参観を実施し、観察シートに記入して教員間で授業について話し合う。○学習コンテスト：漢字、計算、英単語のコンテストをそれぞれ年1、2回実施し、基礎学力の定着を図る。

第十二中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	72.8	59.6	59.8	69.6	68.4	82.3	86.6	51.2	43.4	64.4	59.6	55.8
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	68.0	60.2	62.1	67.8	61.4	86.4	81.7	75.7	60.2	50.0	38.5	37.2
平均正答率(R8)	63.5	57.1	59.3	62.3	57.0	87.7	64.1	52.3	47.5	64.0	60.9	55.2
平均正答率(R7)	67.1	57.6	63.1	62.2	58.7	89.9	74.4	65.4	57.9	62.9	46.4	51.0

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合〔目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)〕

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合〔正答数÷出題数×100(%)〕)の平均値

「学習定着度調査」分析結果

国語の平均正答率は、3年生が全国・足立区平均を上回った一方、1年生と2年生は全国平均を下回った。特に1年生と2年生は漢字の書きや記述問題、応用問題での正答率が低く、書く力や語彙・言語知識の定着に課題が見られる。

数学においては、1年生と2年生においてはどの領域に関しても区平均を下回っており、特に「数と式」については区平均を約6%下回っている。基本的な計算の困難さから、他の領域の正答率の低さにつながっていることも考えられる。3年生においては、すべての領域において区平均を上回っている。

英語においては、1年生は平均正答率87.7%で全国並み、知識・技能は高いが思考・判断・表現はやや低めである。2年生は47.5%で全国・区を大きく下回り、特に応用問題や英作文に課題が顕著である。3年生は55.2%で全国をやや下回ったものの、基礎・応用とも改善傾向が見られる。

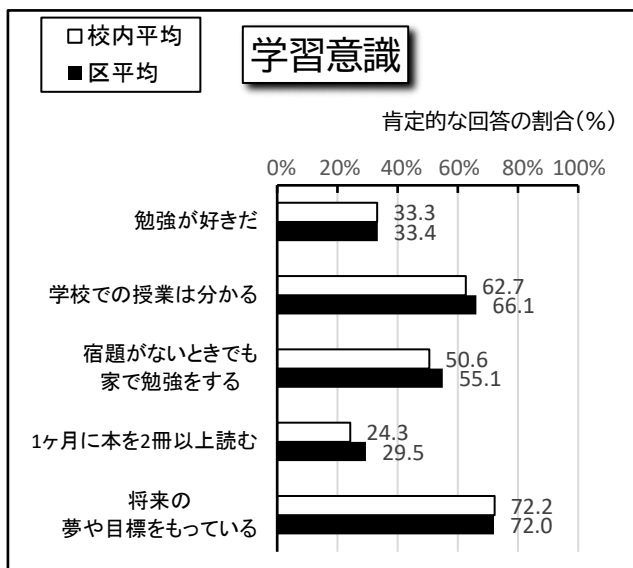
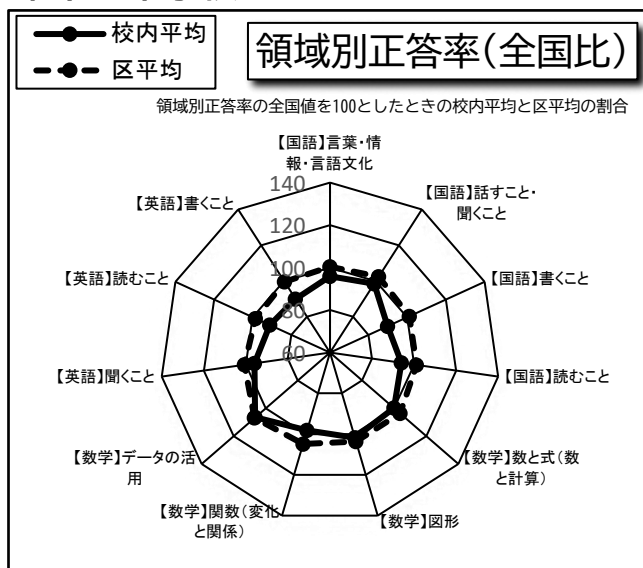
学校による学力向上への主な取り組み

国語では、書く力の育成に重点を置き、記述式問題や作文指導を計画的に取り入れるとともに、漢字学習の反復と定着確認を継続する。また、言語文化・語彙分野の指導強化と、応用的な読解問題への演習量を増やし、学年間で共通の指導方針を統一して取り組む。

数学では、基本的な計算力の向上が最優先課題である。そのため、サマースクールや放課後の補習を利用して、基本的な計算力に課題のある生徒に対して、A Iドリル等を活用した補習を行う。また、「数と式」の領域の得点力向上のために、合格点を設定した計算テストを実施する。

英語では、1年生は読解・記述のさらなる伸長を目指し発展的な演習を実施する。2年生は課題の大きい思考・判断・表現とライティング力向上を重点とし、英作文添削や既習文法の反復演習、リスニング教材の活用を強化する。3年生は入試を見据え応用力と記述力を伸ばす演習を継続する。

第十三中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	65.1	59.4	56.3	63.1	79.2	78.0	80.9	57.8	48.1	52.1	41.5	42.7
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	63.0	56.9	53.6	63.7	77.8	81.9	77.8	50.6	40.9	47.4	42.9	38.9
平均正答率(R8)	61.4	56.0	58.3	61.2	64.7	84.7	63.6	55.8	51.7	59.5	46.6	48.4
平均正答率(R7)	65.1	56.2	59.6	62.7	68.5	89.1	70.3	51.0	48.9	62.4	47.7	52.3

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

国語科においては、すべての学年において、全体的に区平均正答率を下回っていた。1年生では、特に「書くこと」において下回っており、国・区との開きが顕著に見られた。2年生も「書くこと」とりわけ記述の正答率が低い。また、全学年共通して、「読むこと」も課題がある。教科書の説明的・文学的文章の読み取りおよび読み取った情報を活用して書く活動の充実を図り、「読むこと」「書くこと」の力の向上を図る。3年生では、「言葉・情報・言語文化」領域で区平均正答率との差が-8.0ptと大きな差がある。授業の導入時に漢字や語句を帯活動として継続して扱うことで定着を図る。

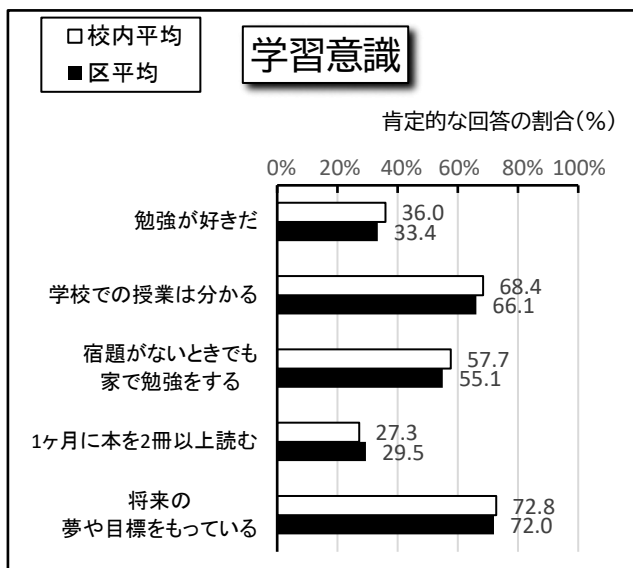
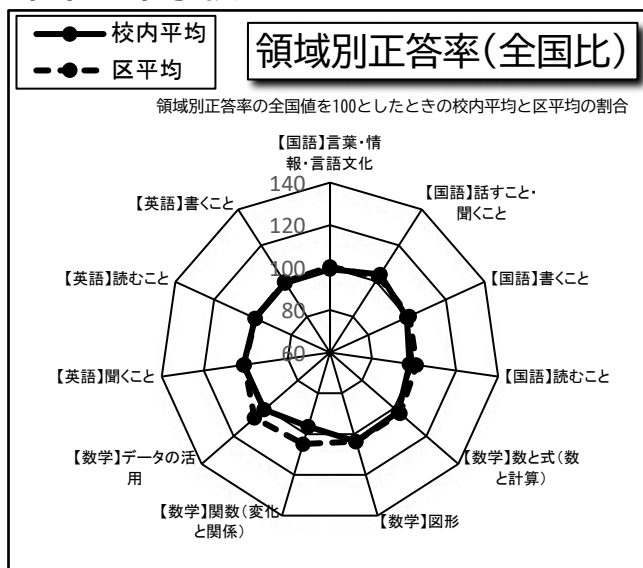
数学科においては、区平均正答率比は、1年生+4.2pt、2年生-2.8pt、3年生-7.2ptだった。1年生は小中連携して区調査の結果を高めることを目標とした指導により、効果が表れたと考える。2年生は1年生時は区平均を超えていたので、中学校での指導が不十分だったと考えられる。3年生は1年生時から区の平均よりも低い。小学校時では高い通過率を維持していた実態を生かし、既習事項を活用し、スムーズな接続に繋げる視点での授業改善が急務である。

英語科においては、全学年ですべての領域で区平均正答率を下回った。1・2年生では、区平均正答率比で、大きな差はないものの、達成率では大きな差がある。特に「読むこと」「書くこと」において顕著である。全学年「思考・判断・表現」において目標値に到達していない生徒が多い。以上の実態から、いずれの学年も今後の指針として、教科書の本文指導を基本とした上で、生徒の言語活動の充実に結びつく教材を生徒の実態に合わせて用意し、表現力を軸に英語4技能のバランスのよい育成を図る。

学校による学力向上への主な取り組み

授業内や補習でのA Iドリル活用により個別のつまずきに合った基礎・基礎の定着を図る。また、達成率に差がある実態から、タブレット端末を活用した自由進度学習を一部導入し、自己の能力やペースに応じて主体的に学ぶ機会を充実することで、個の学力差に応じた取り組みを推進する。また、1・2年生で英語と数学の放課後補習を週1回ずつ、全学年で朝の時間に英語と数学の学習時間を確保し、基礎・基本の定着を図っている。

第十四中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	71.8	62.9	67.6	73.0	76.5	90.0	84.6	66.4	56.9	57.2	44.7	54.9
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	73.6	67.9	70.4	76.0	76.0	91.7	79.8	59.7	53.6	65.5	67.7	65.5
平均正答率(R8)	64.4	56.4	63.6	64.2	60.3	90.3	66.9	60.0	54.1	62.0	48.0	55.5
平均正答率(R7)	69.8	62.8	68.6	66.1	68.3	91.5	74.2	55.6	57.3	69.3	63.2	65.1

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合〔目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)〕

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合〔正答数÷出題数×100(%)〕)の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【学年別の傾向】

- 1年生の通過率は、全教科とも70%以上で、特に英語は90%と高水準。また、同一集団における経年変化で見ると令和7年度と比べて、2年生の通過率は、国語が8.6ポイント上昇、数学、英語はそれぞれ9.6ポイント、34.8ポイント低下している。3年生の通過率は、国語が22.6ポイント低下、数学、英語はそれぞれ15ポイント低下、1.3ポイント上昇している。

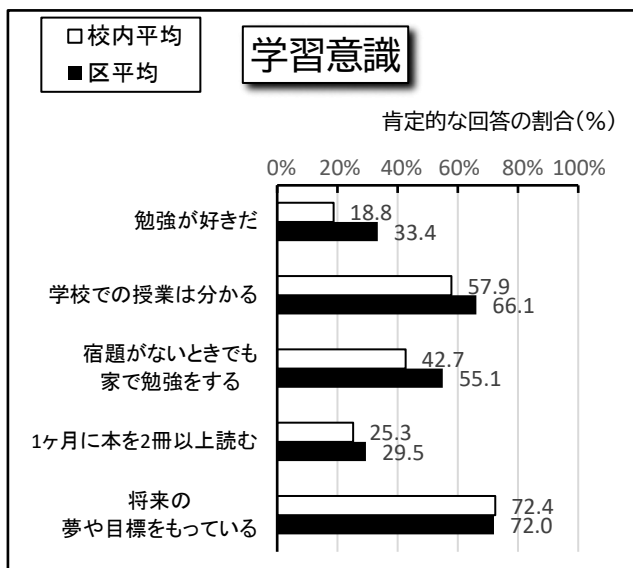
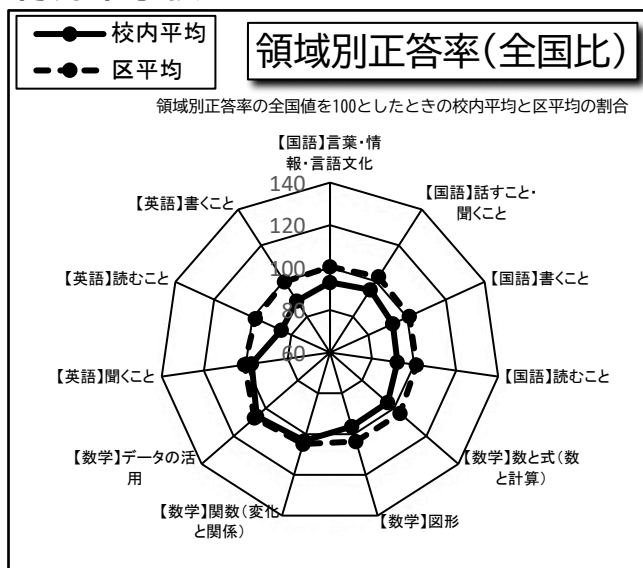
【領域と分析】

- 2年生の英語では、授業冒頭の5分間で、リスニング教材の音声を聞きながら教科書の本文を書き起こすことを定期的実施し、音声領域の強みを文字へと確実につなげる。また、デジタル教科書やタブレット端末を活用し、興味・関心を高め基礎的・基本的な学力の定着を図る。3年生の国語は複数の資料を比較し、その共通点や相違点を100字～140字程度でまとめる「要約・論述指導」を導入する。

学校による学力向上への主な取り組み

- 数学と英語は、基礎的・基本的な学力の定着を図るために、習熟度に応じた少人数指導の工夫による個別指導の強化を行う。
- 国語では、定期考査や実力テストの終了後、誤答の多かった記述問題について、模範解答の「キーワード」を確認した上で、自分の力で書き直す時間を授業内に定期的に確保する。
- 朝学習や放課後補充教室等でA Iドリルを使用し、学習成果を実感できるような学習を工夫する。
- 教職員の授業力を高める取り組みとして、学校全体で教科の枠を超えてお互いに授業観察を行い、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った協議会を実施する。
- 漢字・計算・スペリングコンテストなどの各種コンテストを行い、多くの生徒が満点や合格点を取れるように指導し、成功体験を増やし基礎学力向上に努める。
- 授業において一人一台タブレット端末を利活用し、課題の提供を行うなど、家庭学習に取り組ませていく。

青井中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	64.2	58.8	57.7	48.1	48.1	77.8	80.0	72.0	50.0	65.1	57.8	50.0
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	56.4	54.5	50.5	53.6	64.3	78.6	70.5	61.4	50.0	37.9	34.5	24.1
平均正答率(R8)	60.3	54.2	57.2	54.1	45.2	84.7	64.7	61.3	48.8	61.5	56.5	51.6
平均正答率(R7)	63.0	51.8	54.8	59.9	55.8	87.9	69.5	56.9	51.9	56.2	40.1	39.4

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

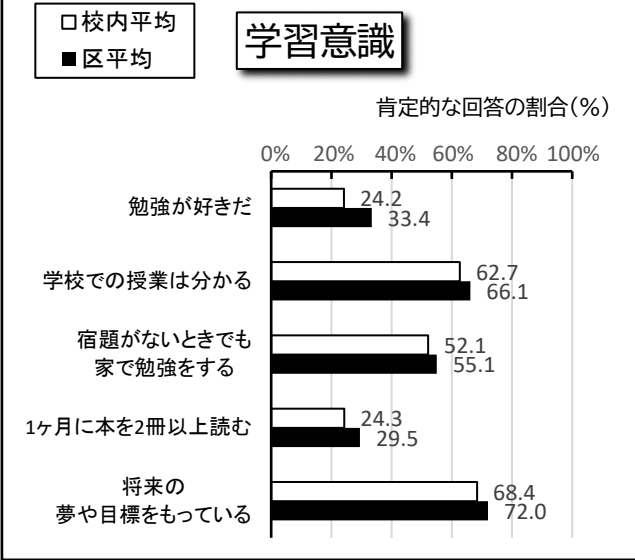
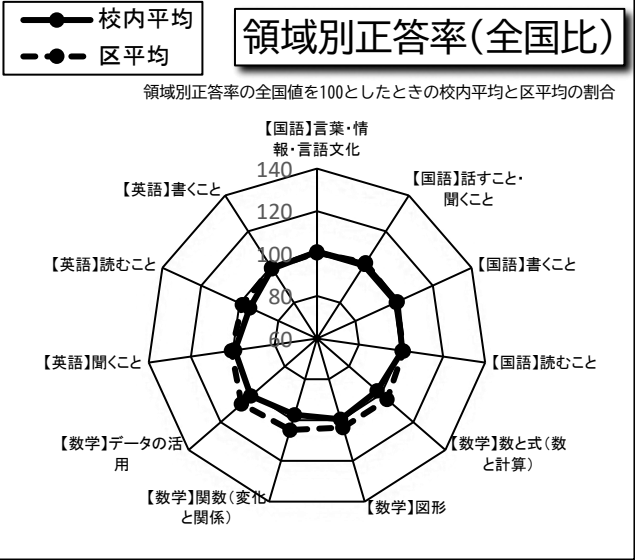
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の平均正答率は、国語は2.7ポイント下がったが、数学と英語は共に2.4ポイント上がっている。
- 通過率は2・3年生に比べて1年生が低い。1年生は基礎の積み重ねが必要である。2年生は昨年度に比べて国語と数学の通過率が共に10ポイント程度上がった。3年生は3教科共に昨年度に比べて23～27ポイントと大幅に上がっている。数学で実施している少人数授業が効果を上げていると考える。
- 学力層の割合を見ると、2・3年生はA層とD層の差が非常に大きく、学力状況の二極化が進んでいる。1年生はA・B層の割合が少なく、D層の割合が大きい。特に国語と数学においてA・B層の割合が30%程度であることから、基礎・基本の定着が課題である。
- どの学年もD層は学習習慣が身に付いていない傾向が見られる。学習に対する目的意識・興味関心をもたせる指導の工夫と対策が必要である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 国語・数学・英語・社会・理科の5教科で、家庭学習の定着を図るためA Iドリルを活用した課題学習を行っている。定着状況を確認するため、1週間に1回、前週分の確認問題を放課後に全員対象で行っている。
- 数学では全学年で少人数授業を実施し、生徒の学力に合わせた授業を展開している。
- 数学では、振り返りシートと単元テストを活用し、随時定着度を計り授業の改善に生かしている。
- 読解力を身に付けさせるために、毎朝10分間の朝読書を徹底している。
- 各授業で、ペアワークやグループワークを導入し、生徒が主体的に学ぶ意欲を育てている。
- 漢字検定・英語検定・数学検定を学校で実施し、資格取得を奨励している。
- 道徳・特別活動・キャリア教育(進路指導を含む)を通して、自己肯定感や自尊心を高める指導に力を入れている。
- 各授業でICT機器を積極的に活用し、生徒が自ら調べまとめることで、生徒が主体的に学ぶ意欲を育てている。

伊興中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	75.6	61.2	66.1	69.8	68.5	83.9	89.4	65.9	67.2	66.3	50.0	49.4
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	63.8	56.2	61.6	71.5	68.9	81.9	70.5	54.0	54.0	46.8	43.0	45.3
平均正答率(R8)	65.2	54.6	61.7	62.2	54.6	87.4	70.8	58.3	56.6	62.0	50.9	53.0
平均正答率(R7)	66.3	54.6	62.7	64.2	60.2	88.3	70.7	52.8	53.6	63.8	48.9	53.4

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値
◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合〔目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)〕
◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合〔正答数÷出題数×100(%)〕)の平均値

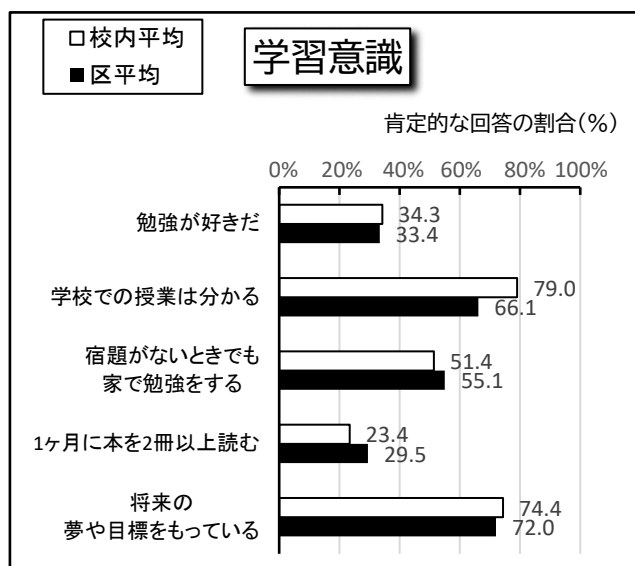
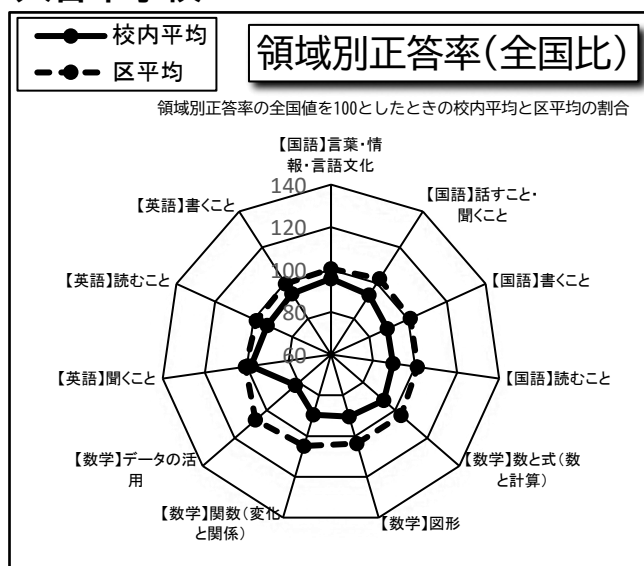
「学習定着度調査」分析結果

1 年生は平均正答率・通過率ともに区平均を下回り、特に数学の通過率では区平均を－6.6ポイントと、大きく下回っている。
2 年生は通過率において3教科すべてで区平均を上回り、国語では区平均を＋5.6ポイント、英語では＋9.4ポイントと、大きく上回っている。3 年生は通過率で国語が区平均を上回っているが、数学と英語は下回り、特に英語が区平均を－6.7ポイントと、大きく下回っている。
昨年度と比較すると2 年生・3 年生の正答率・通過率は向上しているが、教科によっては、いまだに区平均と大きな差があることが課題である。

学校による学力向上への主な取り組み

教科ごとの課題を解決し、生徒の学力を確実に向上させるため、以下の取り組みを行う。
第一に、A I ドリルを日常的に活用し、一人ひとりの習熟度に応じた基礎・基本の徹底を図る。朝学習や家庭学習の時間に計画的に導入し、繰り返し学習を課すことで、知識の定着ときめ細かな習熟度の把握を進めている。
第二に、全校で計算・漢字・スペリングコンテストを定期的実施する。さらに、火曜日の朝確認テストや木曜日の補充教室を効果的に連動させ、基礎的な問題を繰り返し解くことで確実な知識・技能を身につけさせる。これにより、学習への達成感を味わわせ、苦手意識を少しでも減らす取り組みを推進する。
第三に、調査結果の分析から明らかになったC層・D層の生徒の底上げに全力を挙げる。少人数授業の展開により、つまずきのある生徒への個別指導を強化している。さらに、各教科において誤答分析を行い、生徒が間違いやすいポイントを重点的に学び直す授業改善を推進し、全校体制で確実な学力の底上げを図る。

入谷中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	60.7	50.5	57.0	51.1	64.4	71.1	68.1	40.4	44.7	66.7	40.0	53.3
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	53.6	53.6	70.2	58.0	58.0	86.0	68.8	62.5	50.0	27.8	33.3	44.4
平均正答率(R8)	59.7	50.9	62.0	56.7	55.1	87.0	61.9	47.7	49.8	62.1	46.4	52.9
平均正答率(R7)	59.6	54.4	72.7	57.9	57.4	91.3	66.7	56.0	57.2	57.9	43.6	54.2

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

【国語科】書くこと読むことの力が区平均と比較して低い傾向にある。学年別に通過率を見ると、3年生は2年時と比べ概ね変わらない。2年生においては1年生より10ポイント上昇し学力の定着が見られる。その一方で、1年生は通過率が低い現状である。自分自身の感想や考えを言葉で表現するといった「書く力」の育成と初読の文章の要旨を正確に捉える「読解力」の向上が必要である。

【数学科】学年別に通過率を見ると、現1年生は令和7年度の1年生と比較して通過率が向上した。2年生は1年生より17.6ポイント、3年生は2年生より22.5ポイント通過率が下がり基礎学力の定着に課題が残る。2・3年生については、基礎学力の定着に向け授業改善と個別指導の充実を図っていく必要があると考える。

【英語科】領域別正答率を見ると、学校全体として、書くこと、読むことの力が区平均と比べ若干低い。学年別に通過率を見ると、1・2年生の英語の通過率が低い印象にある。2・3年生は特に英文作成の問題が低い傾向にある。逆に、どの学年もリスニング問題に関しては正答率が非常に高く、情報を正しく聞き取る力がついていることが分かる。

学校による学力向上への主な取り組み

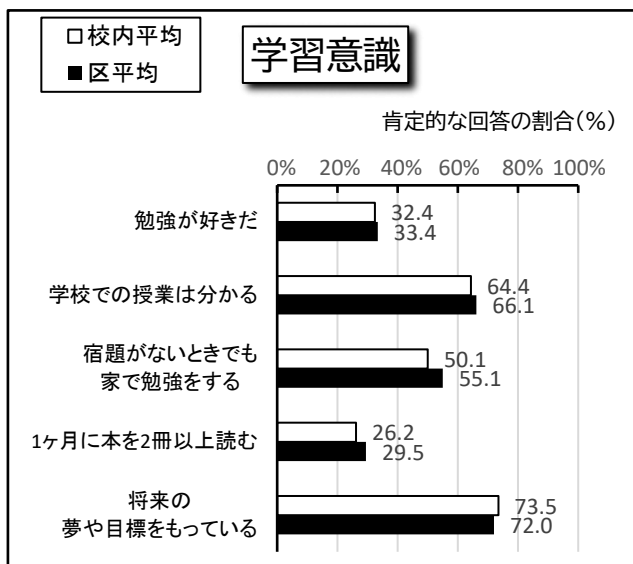
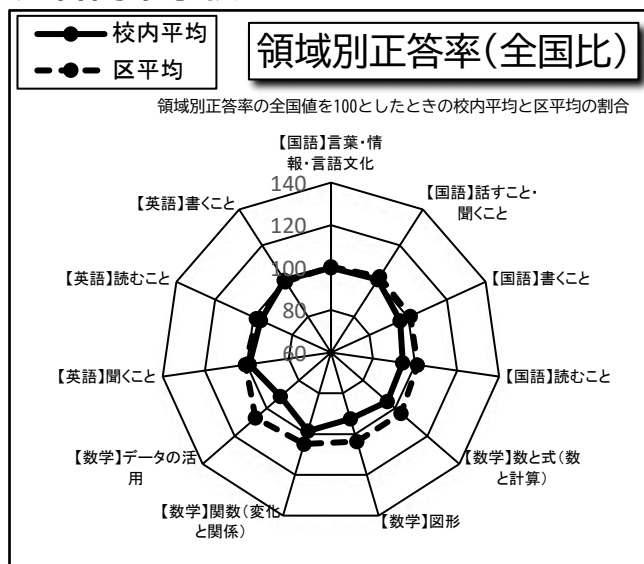
【補習教室】各学年が朝学習用のドリルを使用し、5教科の復習を毎朝実施している。また毎週木曜日の放課後には、1週間で取り組んだ内容の復習をし学力定着に図っている。計画的に学力コンテストを実施し、生徒の学びを高める活動を取り入れる。

【国語科】授業開始時に5分間漢字テストを実施し反復練習を行っている。生徒の基礎学力の定着と成就感の育成を目指し、2か月に1度漢字テストを実施していく。また、書く力を育てるために、初発の感想と単元後の感想を全単元で取り入れていく。

【数学科】足立スタンダードに基づいた問題解決の授業を実践していく。毎時間のノート点検や丸つけ法を駆使して、生徒の実態を常に把握し、その実態に合わせ、指導改善を行う。

【英語科】1・2学年では、帯活動に英単語の力を高めるビンゴを実施している。英文作成の力を高めるために、新たな文法事項の習得後、毎回作文をし教員が添削していく。また、読解力を高めるため、2・3学年は読解問題の活動を帯活動で取り入れている。

入谷南中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	69.6	55.9	65.4	65.1	59.3	74.4	84.3	55.4	60.2	61.4	53.5	62.0
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	67.1	56.3	59.5	72.0	63.4	89.2	79.4	65.4	53.3	50.0	40.4	39.4
平均正答率(R8)	63.4	52.6	63.1	61.0	53.2	85.3	67.3	51.3	53.8	62.2	53.0	58.9
平均正答率(R7)	68.0	55.3	61.5	65.7	60.0	90.3	73.2	57.6	55.2	64.7	48.4	52.0

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

国語においては、校内平均正答率と区平均正答率を比較すると、1年生は4.0ポイント下回り、2年生は0.4ポイント上回り、3年生は1.2ポイント下回っている。領域別正答率では、書くことの領域と読むことの領域の校内平均正答率が全学年で区平均正答率を下回っている。そのため、書くことの領域と読むことの領域において学力向上の取り組みを行う。

数学においては、校内平均正答率と区平均正答率を比較すると、1年生は7.3ポイント、2年生は7.3ポイント、3年生は0.8ポイント下回っている。領域別正答率では、2年生の関数の領域と3年生のデータの活用の領域が区平均正答率を上回っている。しかし、それ以外の領域では全ての学年が区平均正答率を下回っているため、基礎学力向上の取り組みを行う。

英語においては、校内平均正答率と区平均正答率を比較すると、1年生は3.7ポイント下回り、2年生は0.9ポイント下回り、3年生は2.5ポイント上回っている。領域別正答率では、1年生と2年生の聞くことの領域と読むことの領域が、区平均正答率を下回っている。そのため、聞くことの領域と読むことの領域に関する学力向上の取り組みを行う。

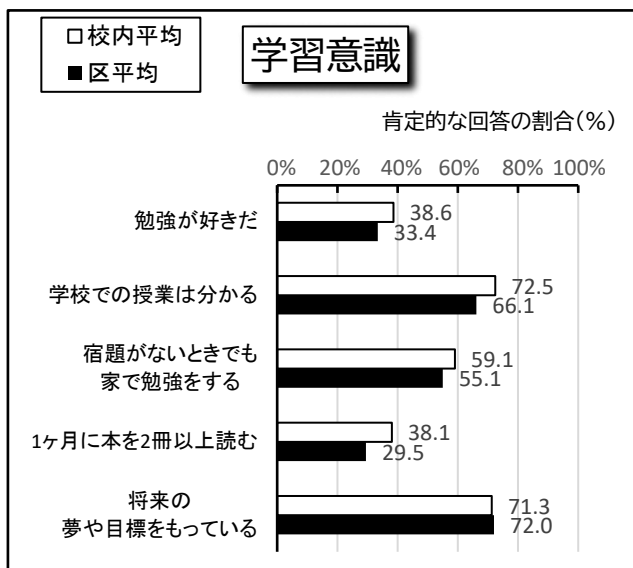
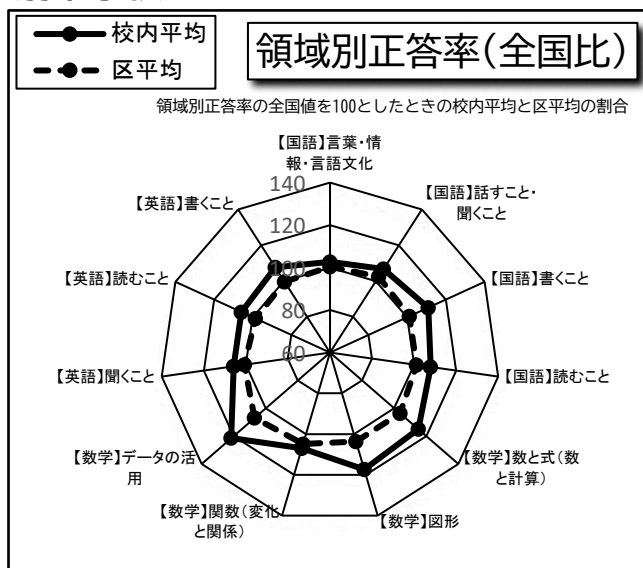
学校による学力向上への主な取り組み

国語においては、読むことの活動で語彙や表現の種類の知識を定着させながら内容理解に取り組む。その上で、書くことの活動ではICT教材も用いながら、考えたことや読み取ったことについて表現する練習を行う。また、問いに正対し、形式を守って書く力を定着させる。

数学においては、ワークやAIドリルの活用を促すことで反復練習を徹底させ、計算などの基礎・基本の定着を図る。また、授業においてもその単元に必要な既習内容を適宜復習して、スパイラル学習がなされるようにする。さらに、放課後補習、朝学習、定期考査前の質問教室などを定期的に行うほか、計算コンテストなどの結果に応じて計算に課題のある生徒のみ補習を行うなど、個に合わせた学習支援を継続的に行う。

英語においては、聞くことと読むことの活動で、既習の語彙や表現を多く使って内容理解の練習を行い語彙や表現の定着を図る。また、聞いたり読んだりしたことに対して自分の考えやその理由・根拠を英語で話す活動を行ったり、話した英語を書いたりする練習を行う。英語を書いた際に、内容面と言語面の点から指導を行い、書く力の向上を図る。

扇中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	78.7	73.2	78.0	76.2	87.3	93.7	89.5	75.4	77.2	71.4	57.1	62.9
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	73.7	72.6	66.7	75.8	85.5	93.5	84.6	73.8	55.4	59.3	57.6	50.8
平均正答率(R8)	67.9	63.3	68.7	67.7	66.7	91.0	70.6	66.8	63.1	65.6	56.5	59.8
平均正答率(R7)	70.6	64.0	67.3	68.7	73.9	94.1	76.0	63.5	58.6	66.8	53.0	59.2

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

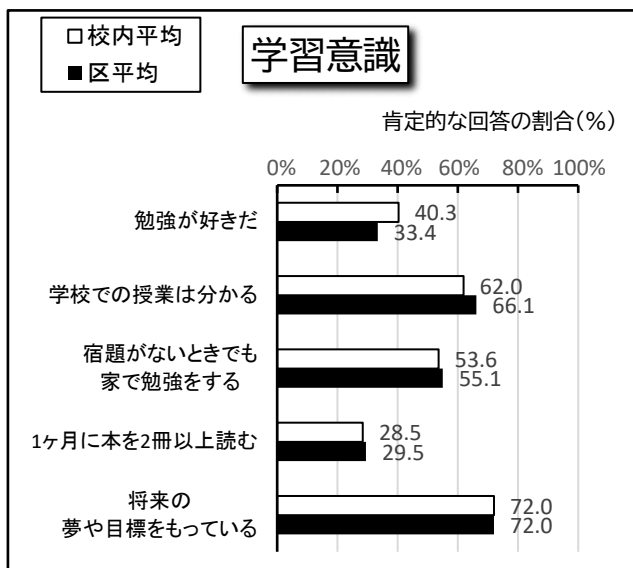
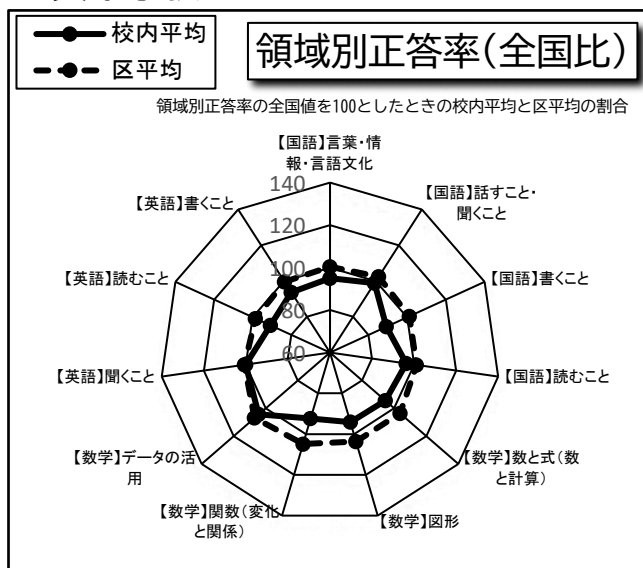
「学習定着度調査」分析結果

- 国語 全ての学年で平均正答率が区平均、全国値を上回った。1年生は「条件に従って文章を詳しく書き直す」問題の無解答率が36.5%と高い値であった。「書くこと」の取り組みを授業内で行っていく。3年生は「漢字の読み」の平均正答率が全国と比べ、10.4ポイント上回った。普段から言葉に触れる学習の成果が表れた。
- 数学 全ての学年で平均正答率が区平均、全国値を上回った。この結果から全学年で基礎・基本が定着していることがわかった。特に技能(計算)の得点率が良かった。その一方で、基礎・基本を応用する内容や記述の問題になると正答率が下がっていた。特に、途中式を書くことができない生徒が多数いた。
- 英語 学校全体の英語の平均正答率は68.7%、通過率は78.0%と、昨年度より向上し、基礎・基本の定着が進んでいることがうかがえる。一方、2年生では、チャットの内容を踏まえて受信者の立場で英語を書き、やり取りを完成させる問題の正答率が低く、場面や文脈に応じて英語で適切に表現する力に課題が見られた。

学校による学力向上への主な取り組み

- 学習定着度調査結果のSP表を分析し、個々の生徒の課題を図る授業実践を行う。
- 校内の小中連携研修を通して、日々の授業改善を行う。各授業においては、前時の振り返りや既習事項の活用を意識的に取り入れるとともに、学習のねらいを明確にする。さらに、発問や授業形態を工夫することで生徒の思考を深め、対話的で深い学びに結び付く授業を計画的に実践する。全教員による相互参観を実施し、組織的な授業改善の充実を図る。
- 放課後の補充学習を充実させ、個々の課題について演習を中心に個別指導や少人数指導を実施し、学力向上を図る。
- AIドリルと家庭学習ノートを活用し、毎日自宅学習を行わせることで、学習習慣の定着化と基礎学力の定着を図る。
- 夏季休業日中の6日間に、国語・数学・英語の補充学習を行う。定期テストで解けなかった問題の解き直しや、授業での理解が不足している内容の補充問題を行う。
- 「興本扇の45冊」を選定し読書への関心を深めさせる。読書カードの活用やおすすめの本カードを作成させることで、読書活動の充実を図る。

加賀中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	66.7	54.8	61.1	64.6	75.0	85.1	75.0	51.1	43.5	60.8	39.2	54.9
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	66.0	51.7	57.3	63.6	56.4	72.7	82.7	55.8	57.7	45.9	38.9	33.3
平均正答率(R8)	61.5	52.8	60.3	61.2	57.9	89.0	61.1	52.9	48.2	62.2	47.5	54.7
平均正答率(R7)	65.2	53.7	61.0	59.6	58.2	83.2	73.2	54.1	54.5	62.1	45.4	49.0

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合〔目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)〕

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合〔正答数÷出題数×100(%)〕)の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【学習意識調査】「勉強が好きだ」の項目については、肯定的な回答の割合が、6.9ポイント区平均を上回り、昨年度に比べ10.3ポイント増加している。

【全体】今年度、各教科を合計した学校全体の通過率は、60.9ポイントであり、昨年度の学校全体の通過率58.3ポイントに比べて、2.6ポイントほど上回った。

【国語】1、2年生は、今回の平均正答率が目標値と比べ、大きく上回っている。2年生は、1年次の通過率に比べ、11.4ポイント上回ったが、3年生は、2年次の通過率に比べ、大きく下回った。全体的に全学年ともに、「書くこと」の数値が低く、重点的な指導が必要である。

【数学】1、2年生は、平均正答率が目標値と比べ上回ったが、3年生は、2.5ポイント下回った。特に「数と計算」や「関数」、「図形」の領域が十分に定着しておらず、課題である。

【英語】1、3年生は、平均正答率が目標値を上回っているが、2年生は1年次に比べ通過率が下がり差が広がっている。2、3年生は、「読むこと」「書くこと」に課題が見られる。

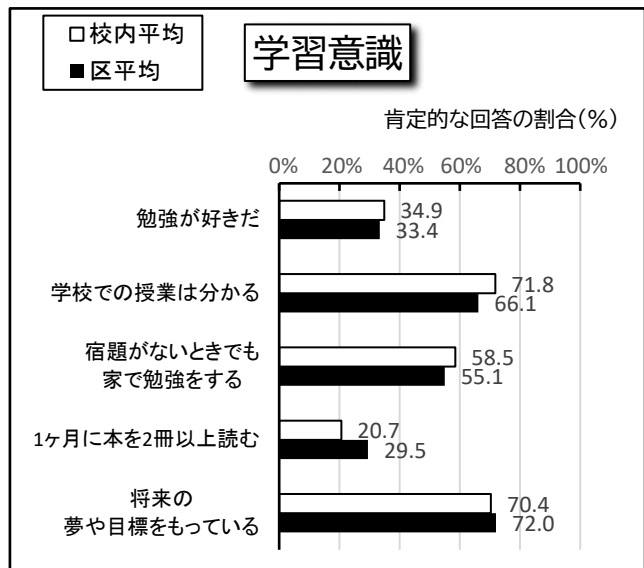
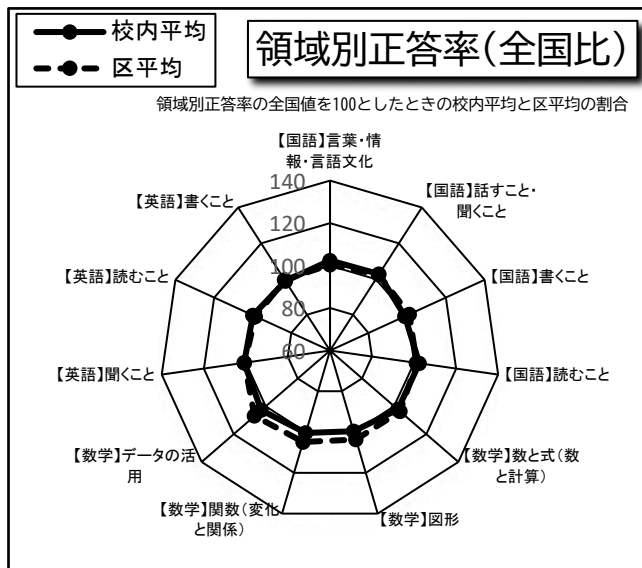
学校による学力向上への主な取り組み

【国語】普段の授業に加え、朝学習や補充学習等で、言葉や漢字の反復学習を強化し、基礎・基本の定着を図る。授業では、「書くこと」への抵抗感を減らすため、短作文や俳句の創作を行ったり、書き方を具体的に示したりする。また、「読むこと」や「書くこと」の力を付けるため、根拠、意見、理由づけを意識した読み取りや意見文の作成に重点的に取り組む。

【数学】基礎・基本の定着を重視し、授業内で基本的な計算問題等に継続して取り組ませる。特に課題が見られた「関数」については、グラフ・表・式を関連付けて理解を深める指導を行うとともに、「図形」についても、つまづいた問題について丁寧に解説し、理解を深める。あわせて、定期的に単元テストを実施して定着度を確認し、つまづきの解消を図る。

【英語】語句や英文の正確な記述や、英文や対話に応じた英文記述ができるように、授業や授業外における学習活動を通して、語彙や文法の基礎を定着させるための学習を取り入れ、「書くこと」の力を伸ばす。また、英語を読む機会を増やし、目的に応じて内容を捉える活動やチャンクを意識した音読活動を継続的に行うことにより、「読むこと」の力を伸ばしていく。

蒲原中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	73.0	61.2	65.6	73.0	80.9	85.8	82.0	59.1	57.3	63.3	43.5	54.0
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	69.6	64.7	65.5	70.9	73.2	80.5	80.7	64.6	51.7	58.1	56.0	62.7
平均正答率(R8)	65.5	56.3	63.5	66.9	62.0	90.2	65.6	57.1	54.2	64.0	48.9	56.4
平均正答率(R7)	68.7	60.8	67.3	65.2	66.2	89.1	74.5	59.6	56.7	67.1	55.8	62.9

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合〔目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)〕

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合〔正答数÷出題数×100(%)〕)の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【3年生】

通過率では、3教科において全国値より下回っている。数学において、基礎的な内容の定着が十分でない結果となった。

【2年生】

通過率では、数学が全国値を上回っているが、区内値は上回ることができなかった。

【1年生】

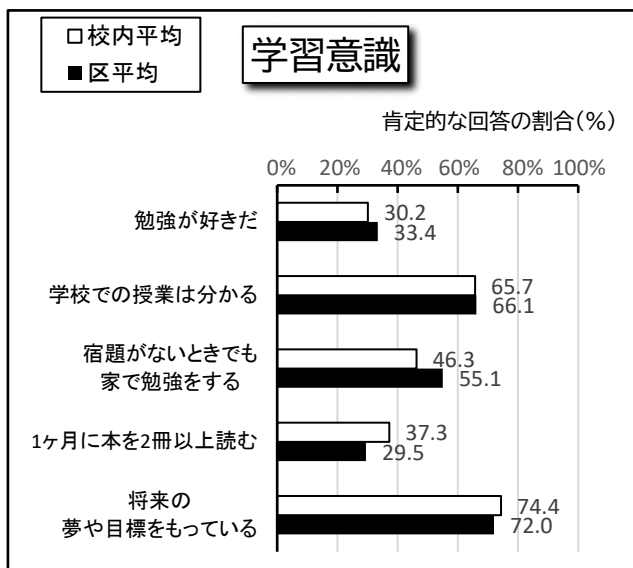
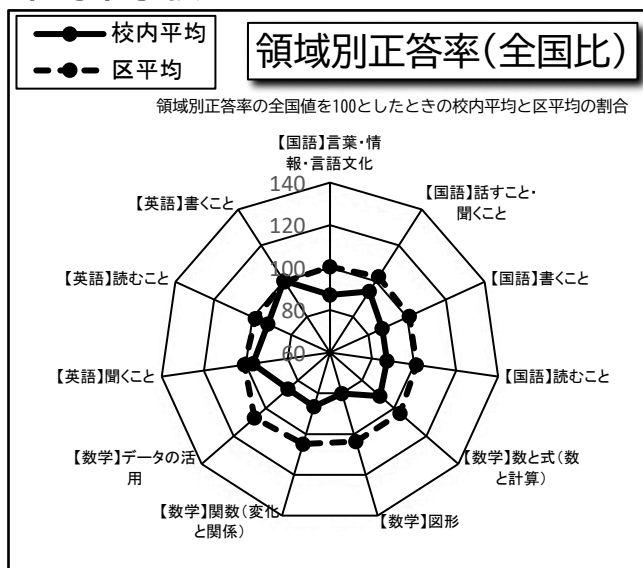
通過率では、3教科において、すべて区内、全国値を上回っている。

「学校での授業は分かる」が昨年度より6.5ポイント上回っている。しかし、数学において、学年進行と同時に基礎的な内容の定着が難しくなっているのがわかる。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・朝学活終了後、8時30分から25分間の朝学習（学びタイム）を実施している。全学年で基礎学力定着を目的として学習に取り組み、漢字・計算・英単語の学習コンテストでは、満点賞を表彰し、継続的な学習習慣を身に付けるようにしている。
- ・年4回の定期考査一週間前には、質問教室を開催し、放課後の時間に自習を行える教室を用意している。教科担当が巡回し、分からないところを質問できるようにしている。
- ・夏季休暇中に、「サマースクール（補習教室）」を開催している。学年ごとに6日間で設定し、選択制・希望制で実施し、各教科の基本的内容の定着を図っている。
- ・東渚江小学校、北三谷小学校との小中連携では、相互の授業観察や授業案検討会を通じた研究授業を通して、9年間の学びを意識した授業改善を相互に行っている。
- ・保護者会において、評価・評定に関する説明を実施。観点別評価の方法を説明し、評価評定への理解を深めていただいている。

栗島中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	52.3	48.5	60.5	48.9	55.6	75.6	62.2	42.2	57.8	48.8	48.1	53.7
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	56.5	50.5	48.4	62.5	72.9	89.6	72.2	63.3	39.2	29.8	14.0	26.3
平均正答率(R8)	57.2	48.4	59.8	54.6	50.9	85.9	58.5	45.6	52.5	57.8	48.4	54.9
平均正答率(R7)	62.6	48.9	54.8	63.0	62.9	89.2	69.0	53.3	50.7	53.5	29.7	42.3

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合〔目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)〕

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合〔正答数÷出題数×100(%)〕)の平均値

「学習定着度調査」分析結果

各教科・各領域の正答率は全体的に区平均をやや下回る領域が多く見られる。数学は「図形」・「データ活用」の領域において、区平均より下回り、基礎・基本の定着度において区の平均水準に届いていない現状がある。一方で学校全体の平均正答率で見ると、英語は前年の54.8%から59.8%へと大きく向上している。これまでの言語能力の育成に重きを置いた指導内容や少人数・習熟度別指導などの成果が現れていると言える。特に、英語の「書くこと」の領域は無回答率が大幅に減り、書くことに重点を置いた帯活動の取り組みにより、区平均に近い水準を維持している。

学習意識調査においては、「将来の夢や目標をもっている」割合は70%を超え、区平均を上回っており、学習意欲は向上している。しかし「宿題がないときでも家で勉強をする」の項目で区平均を大きく下回っており、家庭学習の習慣化や自主的な学習姿勢の育成に課題がある。また1年生は、国語・数学ともに平均正答率が低い傾向にある。中学校の学習ペースの適応や小学校段階の基礎の再確認を含めた早期のフォローアップが急務である。

学校による学力向上への主な取り組み

1 学習コンテスト（5教科）

各教科担当が基礎・基本の定着を目的とし、生徒の課題に応じて出題内容を吟味して実施する。各生徒が自分で目標点を定め、プレテストの結果に伴い目標点を再設定し、本番のコンテストに臨む。学習したことができたという自己有用感を高め、基礎学力の定着を図る。

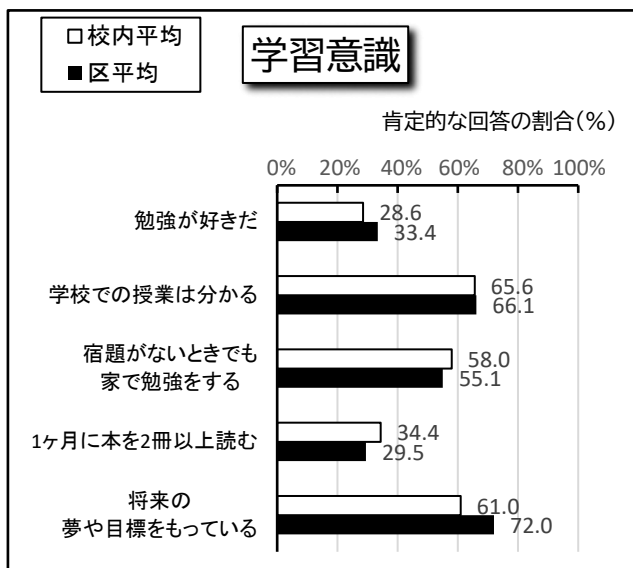
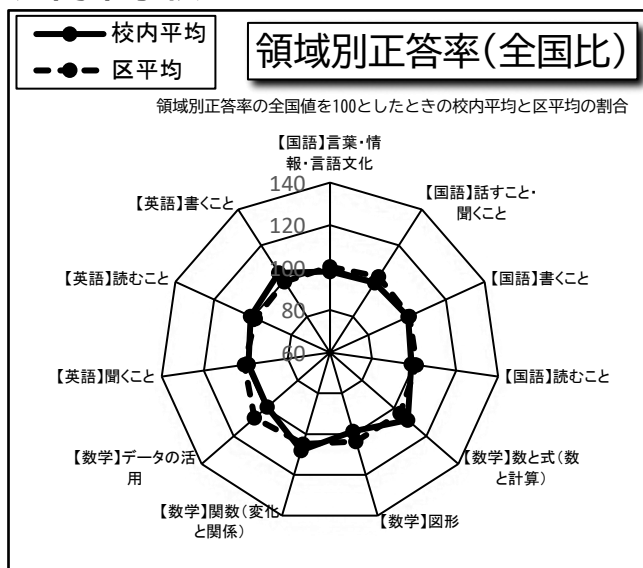
2 授業の「まとめ」と「振り返り」の充実

「めあて」に正対した「まとめ」を適切に行い、学習の定着を図る。また各生徒がこの時間で何がわかり、何がわからなかったかを振り返る時間を設ける。全体のまとめと個人の振り返りを通して、学習調整力を育て、自ら学ぶ意欲を育て、家庭での自主学習につなげる。

3 放課後・長期休業中の学習教室

家庭学習の習慣化と家庭学習の進め方の習得を目的とし、学習教室を定期的に実施する。個別の支援を丁寧に行い、授業でのつまづきを解消し、基礎学力の定着を図る。自らの課題と向き合い、わかる楽しさを実感させることで、学びに向かう姿勢を育てる。

江南中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	67.4	62.1	69.0	55.3	76.6	76.6	82.0	54.9	64.7	63.8	55.3	66.0
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	70.9	68.3	72.0	70.0	68.0	84.0	88.6	75.6	67.4	55.3	61.7	63.8
平均正答率(R8)	63.8	57.7	64.2	61.7	60.7	85.2	64.6	56.2	55.4	65.0	56.1	60.5
平均正答率(R7)	70.1	62.5	69.6	64.4	63.5	88.7	79.9	65.8	61.5	67.1	58.2	64.7

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合〔目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)〕

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合〔正答数÷出題数×100(%)〕)の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○国語：『書くこと』の領域を除いた分野で区平均、全国値を下回っている。しかし、『書くこと』の領域に関しても全国平均は上回っているが、区平均は下回っている。「1ヶ月に本を2冊以上読む」生徒は、区平均を上回っているのにも関わらず、「読むこと」の正答率は平均並みである。読み取りを教えるのではなく、読み取り方を教えていくことで、さまざまな文章に対応できるようにさせたい。

○数学：『数と式』『関数』の領域で区平均、全国値を上回っている。しかし、対比するような形で『図形』『データの活用』が区平均、全国値ともに下回っている。手順通りに取り組めば正解にたどり着く計算は概ねできるため、苦手とする図形のようなひらめきを伴う内容は「感覚の言語化・ルール化」を図りたい。

○英語：『書くこと』『読むこと』の領域で区平均、全国値を上回っているが、『聞くこと』は改善の余地がある。語彙や文法の基礎知識はあるが、音声のスピードで処理する力に課題があるため、音声変化などを指導し、音読やスピーチ活動を多く取り入れていきたい。

学校による学力向上への主な取り組み

○朝読書…毎朝10分間の読書活動に取り組んでいる。その中の言葉を記録することで、語彙力の向上を図っている。また、その言葉を使うことで言語活動の充実に生かしていく。

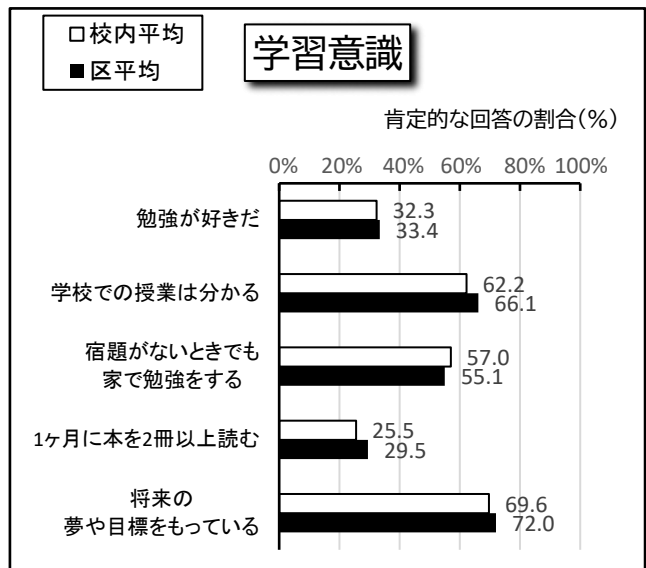
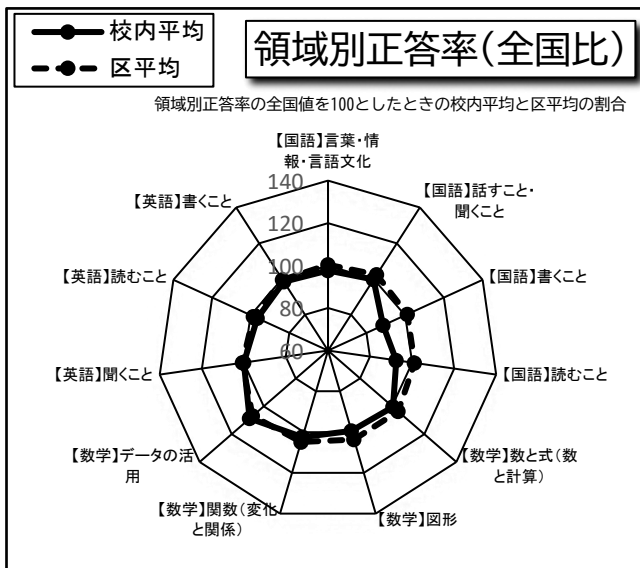
○放課後補充教室…全校生徒が放課後に15分間の補充教室に毎日取り組んでいる。A Iドリルを活用し、学習、テストを実施し、つまずきのある生徒には、より丁寧な指導を行う。また、異学年交流を行うことで、学習への意欲を高めていく。

○サマースクール…7月までのつまずきを解消するため、少人数指導での、補充学習を行う。1年生には、夏季数学特訓も実施する。また、8月末に夏季休業中の課題が終了していない生徒に、その課題を取り組ませることで、9月からのスムーズな登校を促す。

○家庭学習…本校独自の家庭学習ノートを使い、家庭で、その日の授業で習ったことをすぐに復習する習慣を身につけさせる。担任が点検し、指導を行う。

○ICTの活用…大型モニターやタブレット等を使うことで、わかる授業を実施する。また、生徒自身に使用させることで、主体的に学習に取り組む態度を養う。

江北桜中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	67.4	59.4	63.3	68.0	63.9	81.1	77.2	63.4	49.6	56.9	50.8	59.3
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	68.9	65.5	69.8	64.6	66.9	81.9	78.5	66.1	62.8	63.2	63.2	63.2
平均正答率(R8)	61.8	56.0	61.9	62.5	56.5	88.6	63.1	57.4	49.7	60.0	54.3	57.4
平均正答率(R7)	68.1	60.3	68.6	61.3	60.4	88.1	74.0	60.2	61.9	69.4	60.4	61.7

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合〔目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)〕

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合〔正答数÷出題数×100(%)〕)の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】

- ・1年生は、特に大きな課題はないが、全単元に渡って僅差で区平均に届かないという状況。
- ・2年生は、漢字を書く力に成果が表れた。「情報」「活用」「説明文」に課題がある。
- ・3年生は、「説明的な文章」「文学的な文章」が課題。今後さまざまな文章で演習を行う。

【数学】

- ・1年生では、特に「式による表現」「面積・体積」に課題が見られた。
- ・2年生は「文字を用いた式」に課題がある。「データの活用」は区平均を大きく上回った。
- ・3年生は、教科として区平均を上回った。「平行線と角」には課題がある。

【英語】

- ・1年生は、区平均とほぼ同等（0.4ポイント差）で、「文字の記述」の力が高い。
- ・2年生は、英文を読み取ったり正確に記述したりする力と「活用」の力に特に課題がある。
- ・3年生は、教科として区平均を上回り、単元別にも平均的に区平均以上の正答率だった。

学校による学力向上への主な取り組み

【取組1】「わかる」を実感させる授業改善（全教科共通）

- 学習者端末の日常的な活用：生徒一人ひとりの解答やつまずきを教員がすぐに把握する。
- ペア・グループ学習の充実：「友達に説明する」活動を取り入れ、インプットだけでなくアウトプットを通じて思考力・表現力を深める。

【取組2】算数・数学の「つまずき」を解消するステップアップ指導

- 少人数指導の強化：生徒の理解度に合わせたきめ細かな指導を徹底し、「わからない」をそのままにしないよう、補充教室を充実する。

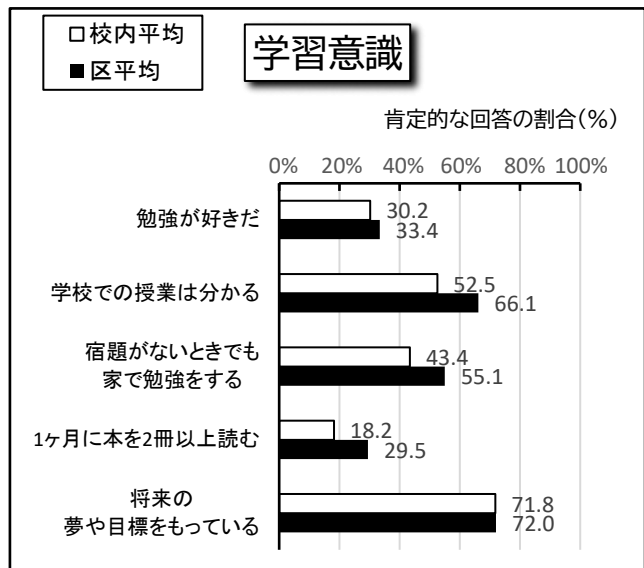
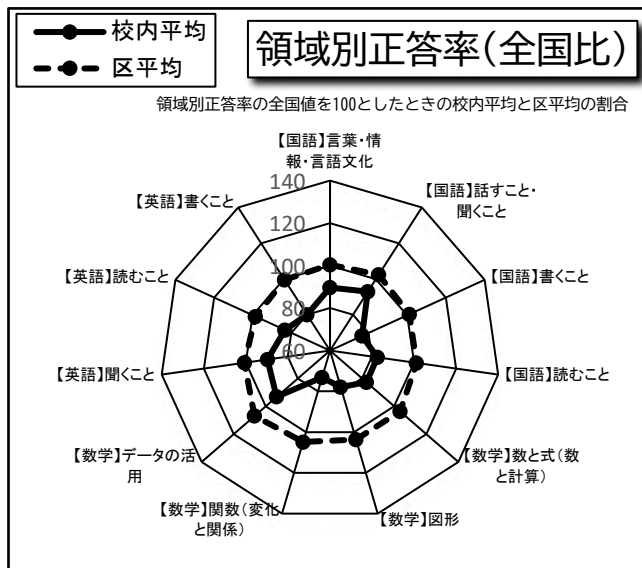
【取組3】英語の「苦手」を作らない継続支援

- デジタル教材を活用した語彙・リスニングの強化：家庭学習でも手軽に取り組めるデジタル教材を活用し、英語に触れる習慣づけを行う。

【取組4】国語・数学・英語のコンテスト実施

- 実施にあたり、事前の取組はもちろん、事後の補充学習において学力向上を図る。

鹿浜菜の花中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	54.3	44.3	43.7	57.3	71.8	77.3	65.3	44.1	37.3	41.9	20.9	20.9
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	55.4	48.3	48.1	65.0	66.7	84.6	60.3	40.0	26.2	40.7	38.7	35.2
平均正答率(R8)	56.3	44.9	51.2	58.1	56.4	85.5	57.3	45.9	43.1	53.7	33.1	40.2
平均正答率(R7)	61.3	49.2	53.6	62.1	61.4	87.7	63.6	42.1	41.1	58.0	43.1	45.5

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

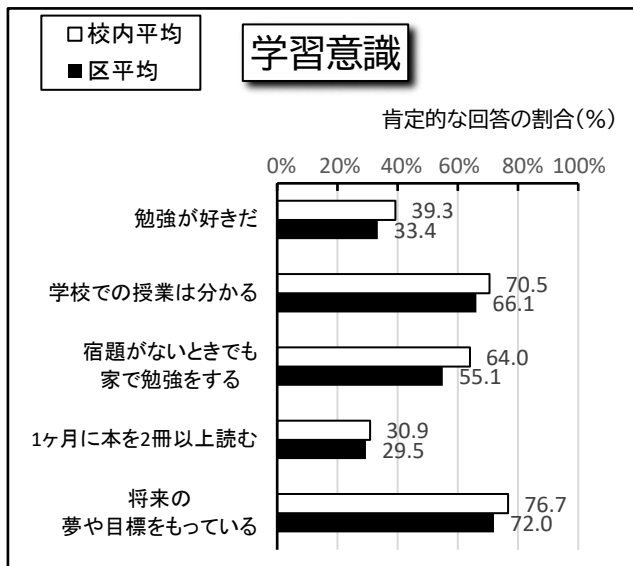
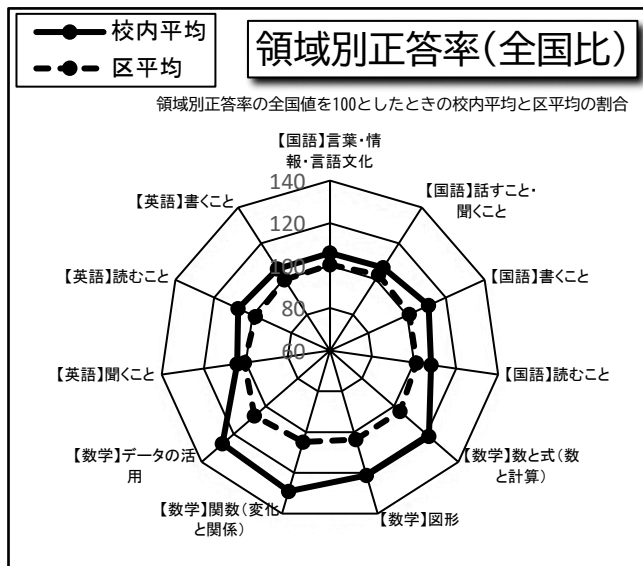
「学習定着度調査」分析結果

- 1年生では一部の指標で良好な数値も見られるが、学校全体として、平均正答率・通過率ともに区平均から大きく低下しており、極めて深刻な状況である。また、学習意識においても、昨年度との比較において、ほぼ全ての項目で数ポイント向上しているが、より教員の授業改善を進めるとともに、生徒が学校生活の中で達成感や成就感が味わえるように取組を見直し、生徒の自己実現を図っていくことが大切である。
- 国語は、「書くこと」「読むこと」に課題がある。知識・技能を定着させ、書く・読む活動と関連付けて継続的に取り組むことが必要である。
- 数学は、前年度から今年度にかけて学校全体で平均正答率が49.2%→44.9%と低下しており、基礎的な計算力や数学的思考の定着に大きな課題がある。
- 英語は、2年生の通過率が37.3%にとどまり、1年生での貯蓄が2年生進級時に大きく喪失していることが伺える。「書くこと」「聞くこと」の領域別バランスの偏りもレーダーチャートから分かる明らかな課題である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 全教科を通して、授業のめあてを明確にし、活動を通して理解を深め、振り返りを通して定着を図っていく。また、学び方の指導を通して、達成感を味わえるように工夫し、「勉強が好きだ」「学校での授業は分かる」という生徒の割合を高める。
- ICT機器やクラウド環境を積極的に授業に取り入れることで、分かりやすい授業や生徒が主体的に学習に取り組める環境の構築、教員と生徒での情報共有の円滑化など、学習効果の向上や生徒の主体的な学びを促進する。
- 定期考査や学習コンテストなどの前には、全校生徒を対象に放課後学習を実施し、個に応じた学習、教え合いなど協働的な学習を実施し、学力の向上と学習習慣の確立、達成感の醸成を図る。
- 読書活動の充実や図書館活用の活性化を図るとともに、国語の授業だけでなく、全ての教科において「書く、読む(読み取る)、まとめる、伝える」の育成を目指した授業の改善に取り組む。

新田中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	77.8	81.2	73.1	79.3	89.3	94.7	85.5	75.7	66.4	69.5	79.0	59.9
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	72.7	75.2	76.3	75.5	76.1	87.3	82.4	77.0	62.4	60.1	72.4	79.8
平均正答率(R8)	69.0	68.1	67.1	69.3	68.0	93.1	70.6	65.7	60.6	67.2	70.4	58.5
平均正答率(R7)	71.0	65.8	72.4	68.0	68.0	91.1	75.7	66.2	59.7	69.0	63.1	73.7

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

全学年全教科で区平均正答率を大きく上回り、1年生数学+7.5、2年生数学+7.1、2年生英語+5.9であった。特に3年生数学が著しく伸び、区平均正答率に対し16.6ポイント上回った。

【課題】各教科安定しているが、今後の課題は思考の言語化である。3年生は国語「複数の条件に従って自分の考えを書く」問題が36.3%、英語の記述も35.5%に留まっている。2年生は英語「読むこと」が45.9%で、高い実績の「聞くこと」(76.1%)に比べると伸びしろがある。1年生数学は「比」が30.0%と低く、小学校の算数の積み残しが影響している。

【成果】「新田学園スタンダード(SGS)」を策定し、毎週1回の教科部会を通じて指導の属人化を排し意識の統一を図った結果、全教科で同一集団が飛躍した。現3年生の数学は昨年2年生時の66.2%から70.4%へ向上し、現2年生の英語は全国平均差が+0.8から+5.8へ拡大した。2年生国語正答率も68.0%から70.6%へ上昇している。「めあての明確化」を徹底したことにより、授業目標の理解度が1年生では58.2%から78.7%へ、A Iドリル活用実感も60.1%から70.0%へ上昇。学級内の助け合い実感も67.3%から78.7%へ高まり、多角的な指導が成果に繋がっている。

学校による学力向上への主な取り組み

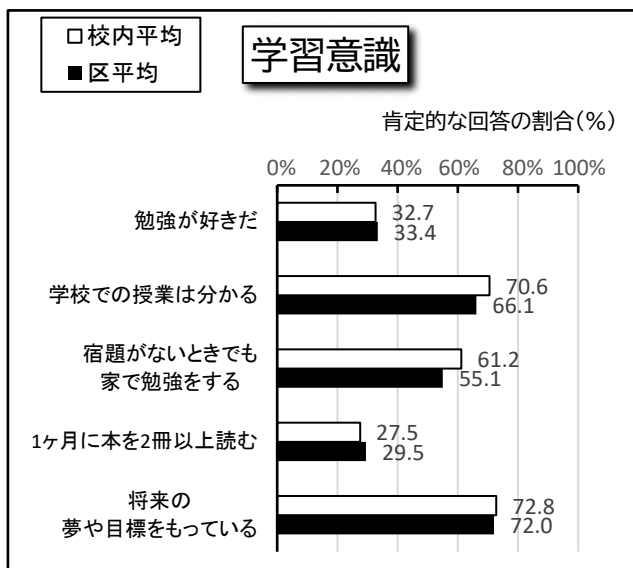
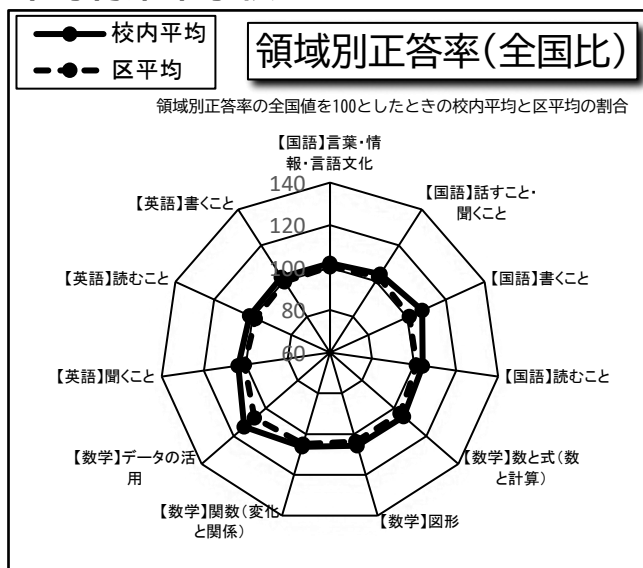
【SGSの徹底】9年間の連続性を意識し、小学時の未定着内容を中学で繰り返し指導、単元終了後に既習全単元の復習を徹底し系統的・継続的な指導を行っている。

【放課後補充教室】毎週火・木の放課後に学力C層・D層にあたる生徒を中心に指導を行う。学習コンテストの週は全員参加で演習に取り組み、誤答の際には次につながる丁寧な言葉がけをするなど、多角的な指導によって基礎学力の底上げと定着を図る。

【サマースクール】夏までの学習のつまづきを解消するため少人数による補充学習を実施する。基礎・発展コースの習熟度に応じた個別支援を行い、3年生は都立入試対策も実施している。【家庭学習】従来の「反復定着」から「自律的な弱点補強」へと目的をシフトさせ、生徒自らがそれぞれの課題を自分で発見し解決する自主性や主体性を養っていく。

【ICTの効果的な活用】ICTを「個別最適な学び」の基盤として定着させ、生徒の「分かった」という気持ちを引き出すため「1授業1Third」を意識した授業づくりを徹底。本校の強みである高い学習意欲を確かな学力へとつなげ、教育力をさらに高めていく。

千寿青葉中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	75.4	63.8	71.4	70.9	68.2	86.5	89.8	66.0	69.4	64.1	56.3	56.3
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	75.7	73.5	66.6	83.3	79.3	88.7	79.5	72.4	54.3	63.0	67.7	52.8
平均正答率(R8)	67.0	59.3	66.6	66.0	60.3	89.8	70.7	61.7	61.0	63.8	55.5	56.3
平均正答率(R7)	71.4	65.0	66.5	69.9	70.1	91.8	74.3	64.7	55.7	70.2	58.7	58.5

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合〔目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)〕

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合〔正答数÷出題数×100(%)〕)の平均値

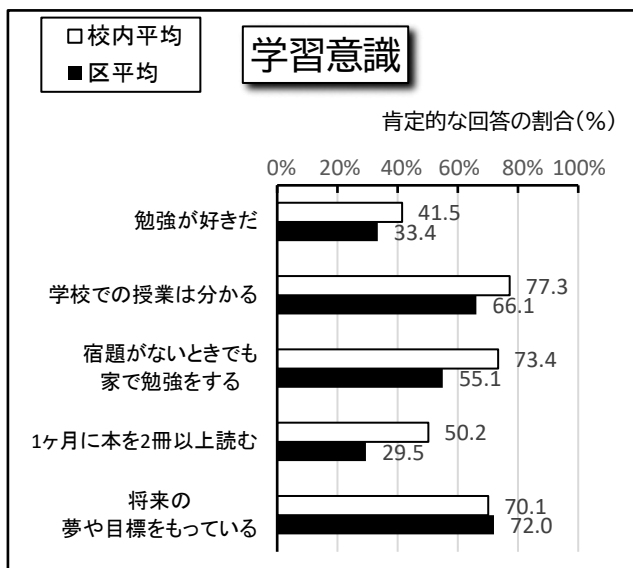
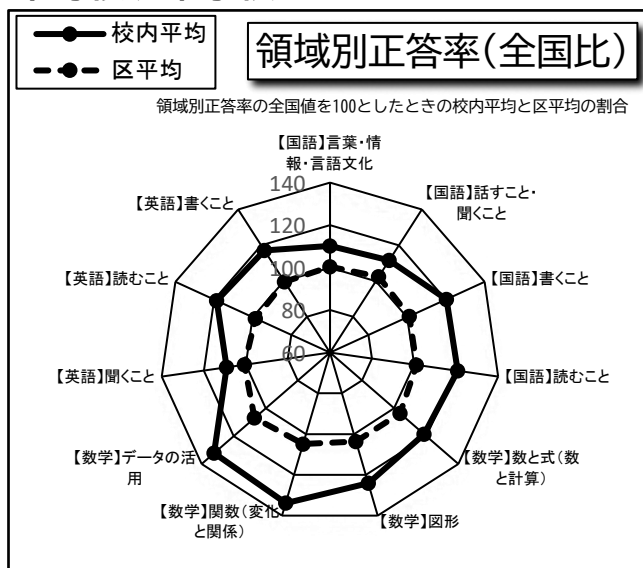
「学習定着度調査」分析結果

- ・高い授業理解度と学習意欲：「学校での授業は分かる（70.6%／区平均66.1%）」、「宿題がないときでも家で勉強をする（61.2%／区平均55.1%）」ともに区の平均を大きく上回っている。生徒の普段の学習姿勢や家庭学習の習慣は非常に良好であった。
- ・1学年における高い英語力：1年生の英語は、R7・R8ともに平均正答率が約90%と極めて高い水準を維持している。
- ・学年進行に伴う学力低下の傾向：学校全体の平均正答率を見ると、R7からR8にかけて国語（71.4%→67.0%）、数学（65.0%→59.3%）と低下傾向にある。また、3年生になると数学（55.5%）や英語（56.3%）の正答率が落ち込んでおり、学習の難易度が上がるにつれて定着に課題が見られる。
- ・読書習慣の不足：「1ヶ月に本を2冊以上読む」割合が27.5%（区平均29.5%）とやや低く、これが国語の「言葉・情報・言語文化」や記述問題などの読解力・表現力の土台に影響している可能性がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・少人数授業
数学・英語は少人数授業（数学は習熟度別）を展開し、個に応じた指導を充実させる。
- ・A S T（青葉・スペシャル・タイム）の実施
今年度も、A S Tの時間を20分間確保し、取り組んでいる。A S Tは放課後に全員が自学自習に取り組む。学習が定着しない生徒には補充的な学習の時間とすることがある。
- ・サマースクール（補充教室）の実施
数学と英語に特化した授業を行う。数学科と英語科が内容を検討して授業を行い、各学年教員全員が支援を行う。
- ・年間3回の学習コンクールを実施し、生徒の学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る。
- ・A S Tを中心に、A Iドリルを活用した学習を行う。
- ・定期考査2週間前を家庭学習定着期間として、家庭での学習状況の確認をする。

千寿桜堤中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	86.4	80.0	84.9	89.9	90.5	97.5	91.9	77.5	76.3	76.7	71.4	81.0
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	81.3	79.1	79.3	85.1	88.2	90.1	88.1	78.0	79.3	68.9	69.2	66.2
平均正答率(R8)	73.4	68.5	74.9	76.0	69.7	93.9	73.8	69.5	64.9	70.4	66.1	72.7
平均正答率(R7)	75.0	69.9	74.1	71.5	76.7	92.3	80.6	68.3	70.7	72.7	62.4	64.3

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

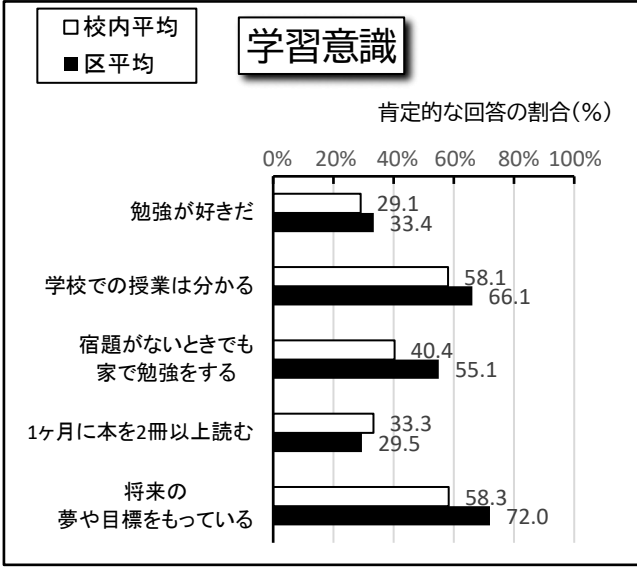
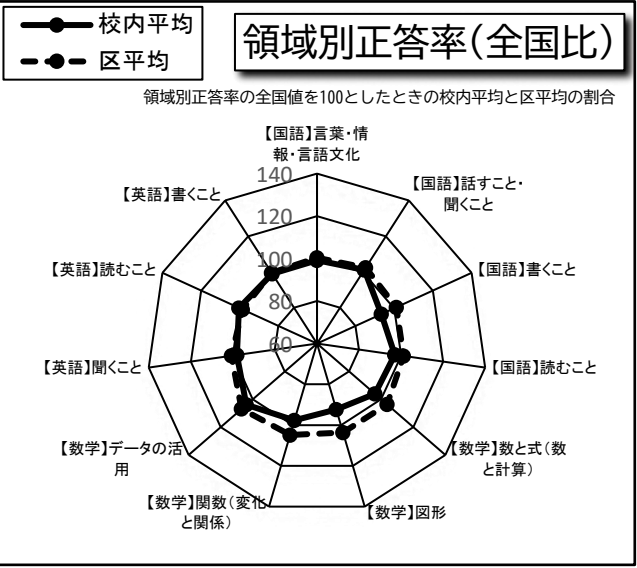
「学習定着度調査」分析結果

- どの学年においても、すべての教科において正答率・通過率が区平均を上回っており、本校の学習定着に向けた取り組みの成果が表れている。また、学習意識についても概ね区平均を上回っており、一定の成果が見られる。特に「宿題がないときでも家で勉強をする」は、昨年度と比べて+8.7ポイントと大きく向上している。一方で、「将来の夢や目標をもっている」は区の平均と比べて-1.9ポイントで、キャリア教育の推進が今後の課題である。
- 【国語】「言葉の特徴や使い方」や「情報の扱い方」に対して苦手意識を持つ生徒が一部見られる。そのため、言語事項に関する指導の充実が課題である。
- 【数学】「関数」「データの活用」「図形の性質」の分野においては、昨年度と比べて学力の向上が見られる。一方で、「文字式」「平行線と角」については学習内容の定着が不十分であり、指導の工夫が求められる。
- 【英語】「英文や必要な情報の情報の聞き取り」の分野においては、一部の生徒に未定着の傾向が見られる。理解度に応じた個別の支援を行い、確実な定着を図ることが課題である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 生徒に対して「目標達成キャンペーン」を実施し、学習に対する意欲を高めている。
- 教員同士で授業力向上研修や授業参観を実施することで授業力向上を推進し、生徒の学力向上を図っている。
- 国語の取り組みとして、語彙・文法・漢字などの学習場面で、基礎学力の定着を図るとともに、漢字コンテスト・小テストを行い知識の定着を図る。また、基礎力の習熟度に応じて発展的な課題に取り組ませることで「応用力」をつけさせる。
- 数学の取り組みとして、「思考・判断・表現」の単元については、習熟度別少人数数学級指導やプリントを活用して、個々に定着を図る。特に未定着の生徒が多い「活用」については、授業の中で習熟度に応じてグループで取り組む機会を作り定着を図る。
- 英語の取り組みとして、スピーキングコンテスト・単元テストなどを行うことで、「知識・技能」の定着を図る。またTGG、留学生交流などの体験的な授業を通して、表現力や思考力を身につけさせる。個々の生徒に対してA Iドリルの活用し基礎・基本の定着を図る。

竹の塚中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	70.3	60.4	66.7	66.7	71.1	80.0	91.7	69.4	55.6	50.0	33.3	60.0
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	66.7	63.0	67.3	73.0	73.0	91.7	63.6	54.5	45.5	63.2	60.5	63.2
平均正答率(R8)	63.7	54.5	64.7	61.8	57.5	88.6	69.0	59.8	54.0	60.0	43.2	55.0
平均正答率(R7)	67.3	56.9	67.2	64.1	64.1	89.6	66.5	47.9	53.4	71.2	56.7	65.9

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

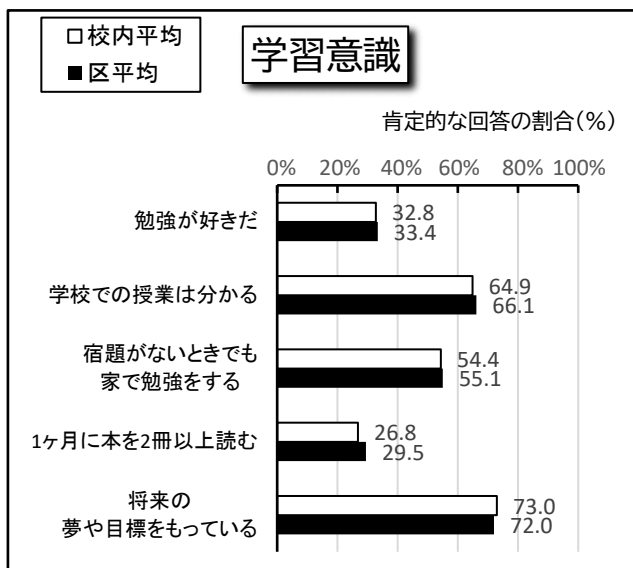
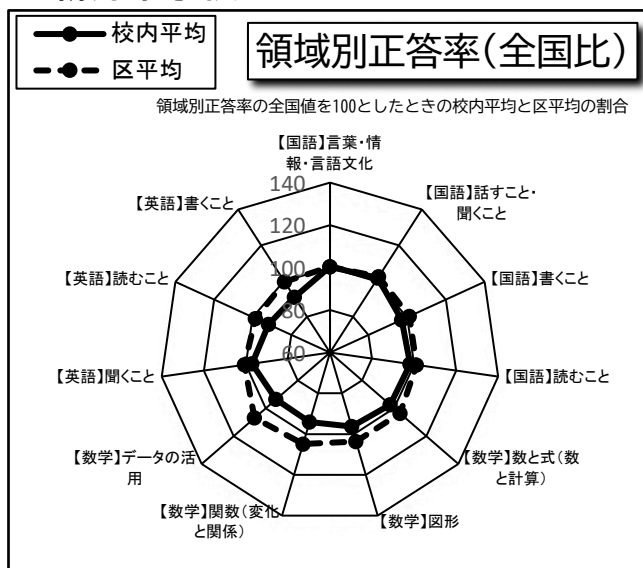
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の通過率は、令和7年度に比べ数学は2.6ポイント、英語は0.6ポイント下回ったが国語は3.6ポイント上回った。意識調査の内容については、前向きな回答が減少傾向にある。授業改善による学びに向かう力の育成が求められる。
- 国語：平均正答率は、区の目標値を1年生で8.1ポイント、2年生で19.0ポイント、上回ったが、3年生で0.4ポイント下回った。朝読書の成果が表れていると考えられる。
- 数学：平均正答率は、区の目標値を1年生で9.5ポイント、2年生で8.7ポイント上回った。しかし3年生では6.8ポイント下回った。3年生で通過率が大きく下回っているため、B、C層の底上げのためA Iドリルや補充教室を活用していく。
- 英語：平均正答率は、区の目標値を1年生で9.3ポイント、2年生で5.6ポイント、3年生で4.8ポイント上回った。3年生での通過率が前年に比べ14.5ポイント向上した。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝学習【対象】全学年【読書】月～金の朝10分間【教科】定期考査前の自習、国・数・英【内容】各自が用意した読書を行う。また、定期考査前やコンテスト前は教科の学習を実施。
- 放課後補充教室【対象】全学年および指名された生徒【教科・時期】国語、数学、英語、月～金放課後20分【指導体制】全教員【内容】A Iドリルを活用し、区学力調査や単元テストの結果を受け、各自の苦手分野の克服および基礎学力の定着を図る。
- 学習コンテスト【対象】全学年【教科・時期】国語(6月) 数学(9月) 英語(12月)【指導体制】教科を中心に全教員【内容】基礎学力定着をめざし、国語は漢字、数学は計算、英語は単語と基本文を出題する。満点賞および3つの満点者を三冠賞として表彰する。
- サマースクール【対象】希望生徒【教科】国語、数学、英語、理科、社会の5教科を実施。【時期】夏季休業中の7月【指導体制】全教員【内容】基礎クラスと標準クラスの2クラスを基本とし(理科・社会は標準のみ) 今までの学習内容の復習および演習を行う。
- 家庭学習強化月間【対象】全学年【教科】全教科【時期】定期考査を実施する月、年4回【指導体制】全教員【内容】学習の成果を提出し、主体的に学びに向かう力を養う。
- 小中連携研修による年2回の研究授業を中心とした授業改善【対象】全教員

西新井中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	72.5	58.2	59.5	70.7	75.1	81.8	85.6	52.7	47.8	59.1	44.9	47.4
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	64.1	52.5	54.2	72.4	67.3	79.5	72.6	55.1	47.5	48.4	35.1	34.0
平均正答率(R8)	64.4	53.5	59.1	65.3	58.2	87.8	67.0	51.6	48.9	60.4	49.6	50.0
平均正答率(R7)	65.8	53.4	59.6	64.7	61.8	88.5	71.3	52.9	51.6	62.4	44.1	47.9

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

〔国語〕平均正答率は、足立区の値を1年生で0.3ポイント、2年生で0.1ポイント上回ったが、3年生では3.0ポイント下回った。昨年度は全学年で区平均を下回っていたので、放課後補充教室での重点的な取り組みが成果を現しつつあると考えられる。

〔数学〕平均正答率は、足立区の値を1年生で2.3ポイント、2年生で7.0ポイント、3年生で4.2ポイント下回った。基礎的・基本的な計算について重点的、継続的な取り組みが必要であると考えられる。

〔英語〕平均正答率は、足立区の値を1年生で1.2ポイント、2年生で5.8ポイント、3年生で6.4ポイント下回った。すべての領域において基礎・基本の定着が必要である。

〔学習意識〕5項目中、4項目が区平均を下回っているが、その4項目の全てが前年度より数値が上回っている。特に「学校での授業はわかる」は前年度より5.4ポイント、「宿題がないときでも家で勉強をする」は前年度より7.5ポイント上回った。今後もよりわかる授業を実施し、生徒の学習意欲を高め、家庭でも進んで学習に取り組む態度を育成する必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

〔ICT機器の活用〕生徒自身がタブレット端末を主体的に操作する授業を展開し、学習意欲を高め、自ら進んで学習に取り組む態度を育てて自主学習や復習の習慣化へとつなげる。

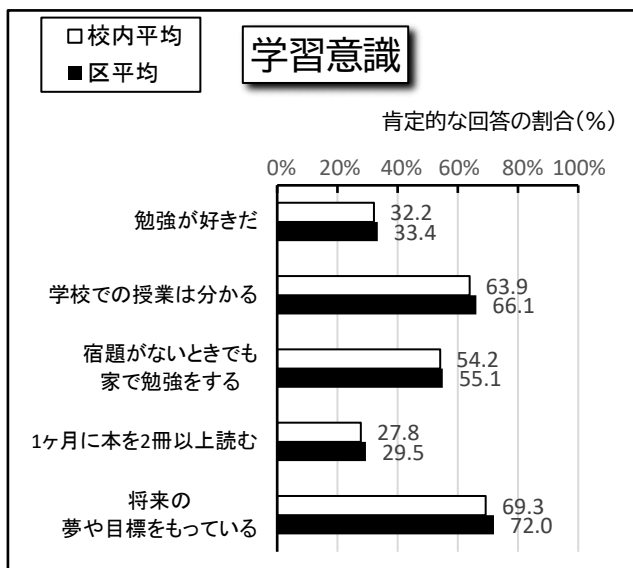
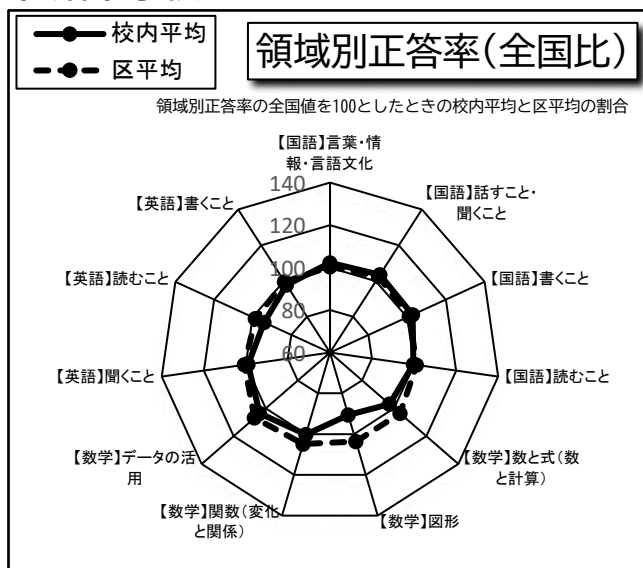
〔教室環境整備〕ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境を整備し、誰もが落ち着いて授業に取り組めるようにする。

〔朝学習・放課後補充教室・サマースクール〕朝学習ではプリント学習やA Iドリルを有効活用する。4月と9月を朝読書月間とし、読書に親しむ態度を育成する。放課後補充教室やサマースクールでは、学力下位の生徒を対象に指導を行う。また3教科の学習コンテスト前は全員で朝学習を行い、コンテスト後は合格点に達しなかった生徒を対象に補充教室を実施する。

〔家庭学習の充実〕授業と密接に関連させて家庭学習ノートやA Iドリルに取り組ませる。

〔授業改善プランの作成と活用〕夏休みを利用して3教科を中心に学力調査結果を分析し、今後の取り組みについて検討する。9月より修正点を取り入れた朝学習や放課後補充教室を実施し、年度内に定着度の低い箇所の補習と確実な学力定着を図る。

花畑中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	77.7	58.4	66.8	80.2	76.9	89.0	81.9	42.2	49.4	68.8	53.1	57.8
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	71.1	63.2	65.4	69.9	68.7	88.1	92.6	73.5	64.7	56.0	50.5	45.1
平均正答率(R8)	65.4	54.3	62.3	66.5	60.6	88.9	63.2	47.8	48.8	66.8	52.5	55.9
平均正答率(R7)	68.1	56.4	63.0	64.1	61.4	88.3	77.6	60.2	58.2	64.7	48.6	52.1

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

学校全体の傾向として、通過率を見ると今年度は国語・英語で前年度を上回る結果となり、取り組んできたことが成果を上げていると考えられる。

一方で、数学は昨年度の63.2%から今年度は58.4%と、4.8ポイント低下した。特に図形分野での低下が大きい。進級するにつれて学習内容が難化していくことに伴い、授業の理解やつまずきの克服が追いつかなくなった層が増えている。

また、生徒の学習意識との関連性を見ると、「学校での授業は分かる(63.9%)」という肯定的な回答に対し、数学の通過率(58.4%)はそれを下回る結果となった。通過率の低下傾向も考えていくと授業内での「理解」が、自力で問題を解決する「基礎的な内容の定着」にまで至っていない生徒が一定数存在することが考えられる。

学校による学力向上への主な取り組み

・図書館の利活用と読書活動の推進

朝読書や各教科の授業と連動した図書室利用を活性化させ、文章を正確に読み取り自分の考えを表現する機会を増やす。

・授業中や放課後の教え合い活動の充実

主体的・対話的で深い学びを目指して授業内での教え合い活動をより多く取り入れる。また、定期考査前や放課後の時間を活用し、生徒同士が自発的に教え合う場を設けて対話的な学びを深めて「基礎的な内容の定着」につなげる。

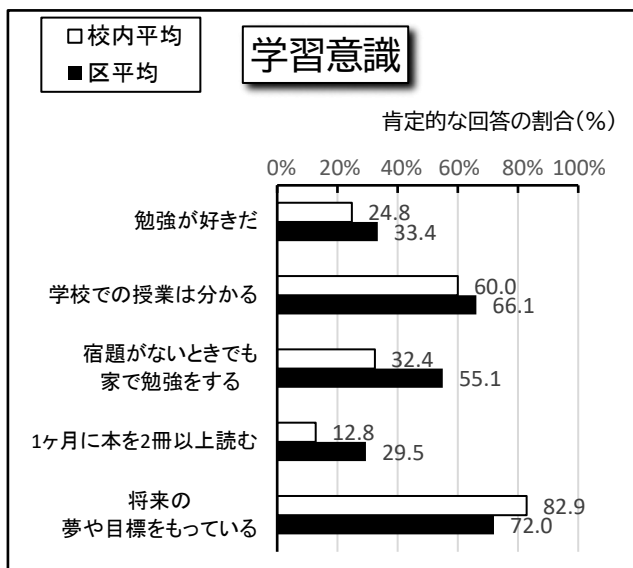
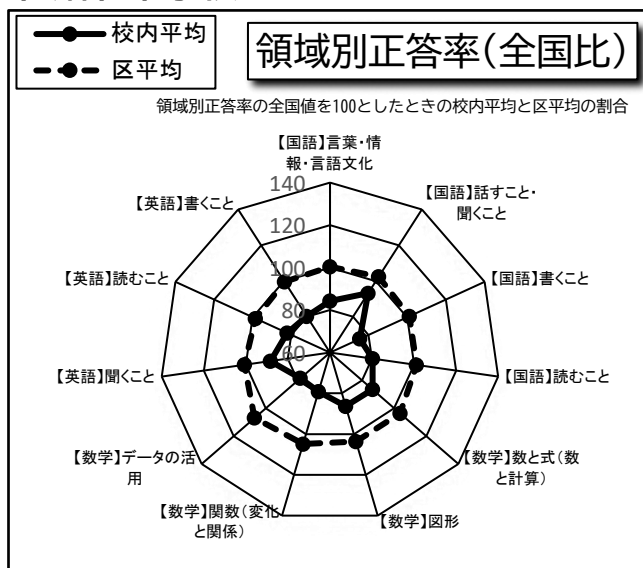
・学年の実態に合わせた家庭学習の定着

毎日の家庭学習において、生徒一人ひとりの習熟度や学年の実態に応じてA Iドリルを活用して即時復習の習慣をつける。

・ICTを活用した振り返りシートの使用

Chromebookを用いて授業の振り返りシートを活用して、自身の変容や課題を意識させ、主体的に学習に取り組む態度を育成する。

花畑北中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	50.0	45.3	43.4	42.6	57.4	66.0	81.5	37.0	25.9	34.4	34.4	25.0
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	49.5	45.4	41.2	56.7	76.7	83.3	58.8	35.3	26.5	33.3	27.3	18.2
平均正答率(R8)	53.6	47.0	55.5	50.7	49.4	81.9	62.6	46.7	42.3	50.2	43.1	42.4
平均正答率(R7)	58.7	48.2	48.4	61.2	63.7	86.7	62.3	39.4	38.9	52.7	41.1	36.5

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

【国語】領域別正答率では、「話すこと」「聞くこと」は平均に近いが、「書くこと」や「読むこと」に課題が見られる。授業や補習では思考ツールなどを活用して書く機会を増やし、「書く力」を身に付けさせるようにする。日頃から文章中の表現に着目し、「読む力」を身に付けさせるようにする。

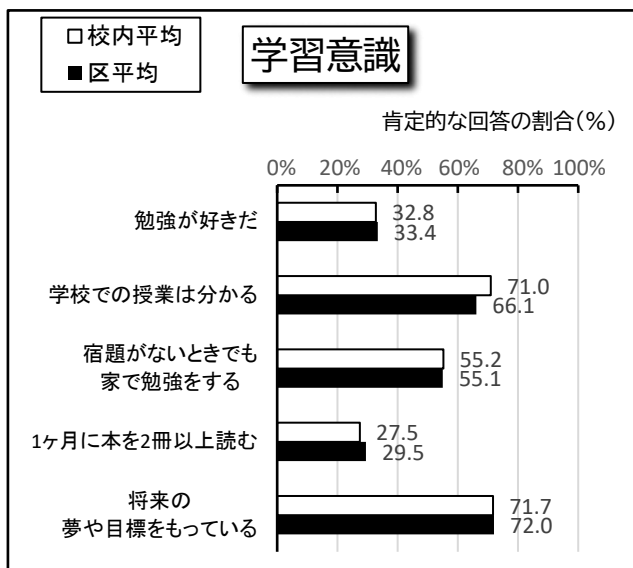
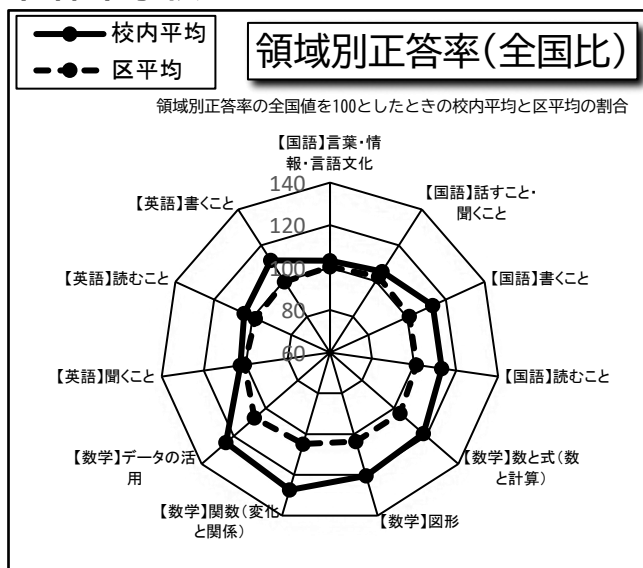
【数学】領域別正答率では、「データの活用」「関数」の正答率が区平均を大きく下回った。全体を通し、大問1・2の正答率が低く、教科書の例題が定着していない。また、1次方程式や関数の分野など文章から答えを導く問題や、図形の領域が課題である。基本的な計算問題の演習や補習を行い、論理的思考を養う授業をしていく。

【英語】いずれの領域においても、区の平均を下回っている。特に「書くこと」において課題が見られる。英作文では、問題の意図を理解しながらも、基本的な語彙の不足や文法の活用に関する課題がある。今後は実際のコミュニケーションに近い場面での英語の活用機会を増やし、A Iドリルやワークブックを活用しながら家庭学習の定着を図ることで、自分の考えを英語で表現する力を伸ばしていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・授業に取り組む態度や決まりを全校で確認し、言語活動や話し合い活動を活発にする。
- ・スライドやA Iドリルなどの電子教材を効果的・効率的に活用した授業を展開する。
- ・A Iドリルを活用した家庭学習や補充教室、小テストを行い、定期考査前に質問教室を開く。
- ・サマースクールを4教科、全校で実施し、自主学習の時間を設け、基礎基本の定着を図る。
- ・年に2回、国語、数学、英語で家庭学習強化週間を実施し、粘り強く課題に取り組む態度を育成する。
- ・全教科で図書館を活用した授業を実践し、活字や文章に触れることで自ら調べ学ぶ力を付ける。
- ・定期考査前に、生徒に目標を立てさせ、実施後には反省を行える冊子を配付し活用する。
- ・年1～3回の到達度テストを全学年で実施し、定着状況を確認・分析して、今後の学習に役立てる。

花保中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	78.8	79.9	75.1	83.9	91.4	84.9	83.1	75.3	71.9	69.2	72.5	68.1
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	73.9	76.1	71.0	73.3	75.6	92.3	86.8	75.8	63.7	60.9	77.0	56.3
平均正答率(R8)	68.8	66.7	68.6	71.7	68.8	89.8	66.7	65.0	60.9	67.8	65.9	62.5
平均正答率(R7)	70.8	68.4	68.4	66.0	66.4	92.2	78.4	70.4	62.3	67.8	68.5	59.2

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合〔目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)〕

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合〔正答数÷出題数×100(%)〕)の平均値

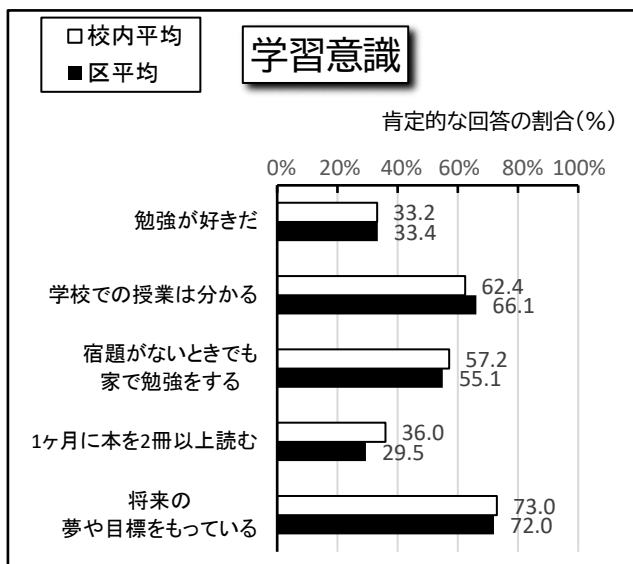
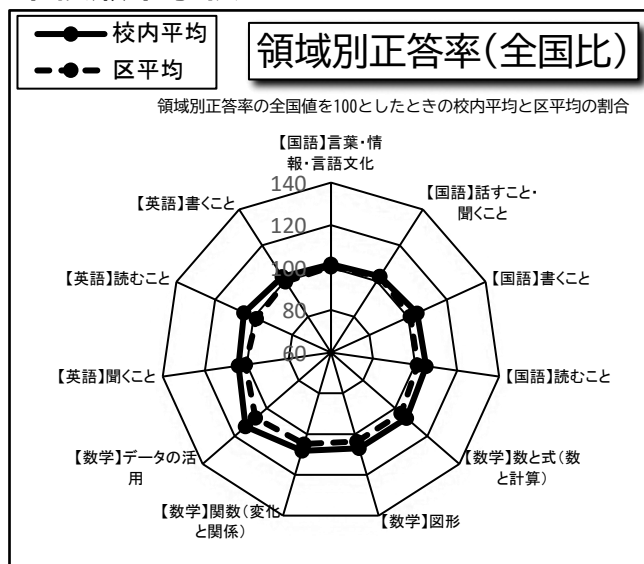
「学習定着度調査」分析結果

- ・領域別正答率では、全体を通して、すべての教科で足立区の平均を上回っている。
- ・今年度1年生の通過率を昨年度1年生と比べると、国語は+10.6ポイント、数学は+15.8ポイント、英語は-7.4ポイントである。
- ・今年度2年生の通過率を昨年度1年生の時と経年比較すると、国語が+9.8ポイント、数学が-0.3ポイント、英語が-20.4ポイントである。国語は昨年度の上昇幅+2.9ポイントに対しさらに上昇を見せている。英語の減少幅は大きい、昨年度の減少幅-20.2ポイントに対してはほぼ横ばいで推移していることから、今年度2年生の学力が低下しているとは言えない。
- ・今年度3年生の通過率を昨年度2年生のときと経年比較すると、国語が-17.6ポイント、数学が-3.3ポイント、英語が+4.4ポイントである。
- ・学習意識のうち「学校での授業は分かる」の肯定的回答値が区平均を4.9ポイント上回り、昨年度からも1.3ポイントの上昇、一昨年度からも継続して上昇傾向が見られる。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・ユニバーサルデザインを取り入れた授業を行う。教室掲示物のレイアウトの方針を学校全体で統一し、どの生徒にとっても落ち着いて受けられる授業を徹底する。
- ・毎日の朝学習の実施。国数英の3教科で実施し、終了後は「まとめテスト」を行う。全員合格を目指し、追試も行う。また、読解力向上を目指しNIEを年2回、1回につき2週ずつ実施し「新聞コンテスト」行い、優秀者を表彰するなど、意識向上を図る。
- ・国数英3教科を中心とした放課後補充教室を実施。朝学習の「まとめテスト」不合格者を中心に基礎的な内容を補習している。また、定期考査前には定期考査に向けた補習教室や質問教室を行う。
- ・読解力・表現力の向上の一環として、ビブリオバトルを行っている。各クラスで予選会を行い、その代表者が集まり、文化祭で決勝戦を行っている。
- ・生徒一人ひとりの主体的学習意欲の向上を目指し、自主学習ノートの毎日提出を実施、家庭学習の習慣化を図る。

東綾瀬中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	73.6	64.6	71.3	70.2	75.3	87.4	85.5	62.9	63.1	64.3	53.9	61.5
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	71.6	65.6	70.9	75.9	77.0	88.9	81.1	65.7	64.6	55.7	51.9	56.3
平均正答率(R8)	66.4	59.9	67.3	65.7	61.7	89.7	68.9	61.1	57.6	64.4	56.3	61.4
平均正答率(R7)	69.8	61.9	69.8	67.6	69.1	90.7	75.9	60.5	63.4	65.6	53.7	61.1

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

【国語】R8の通過率は、R7の通過率と比べて2、3年生は上回っているが、1年生は下回っている。どの学年もAIドリルを活用して、漢字の読み、書きなどの基本的な問題の反復練習を行うことで、基礎学力の定着を目指す。また文章を書く機会を設け、考えを表現する力をつけさせていく。

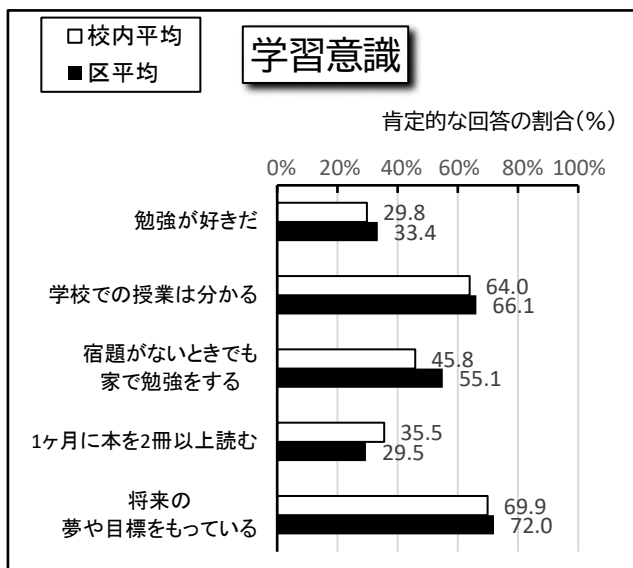
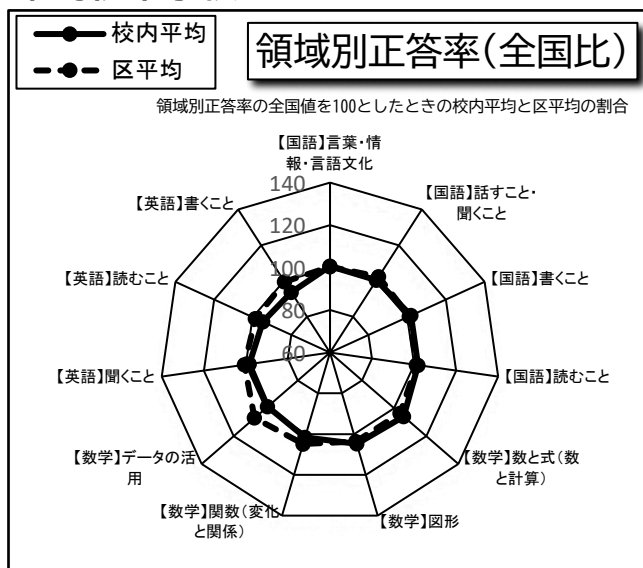
【数学】R8の通過率は、R7と比べて3年生は上回っているが、1、2年生は下回っている。R8の平均正答率は、全学年で区平均より上回っており、基礎基本が定着してきていると考えられる。今後もAIドリルを活用し、基本的な計算問題を繰り返し解くことで、基礎学力の向上を図っていく。

【英語】R8の通過率は、3年生についてはR7と比べて向上している。1、2年生は前年度よりも下回っている。また、領域別では、1年生は「読む」よりも「聞く」「書く」の達成率が低く、2年生は「書く」「聞く」よりも「読む」の達成率の低い傾向にある。日頃の授業で聞き取ったことを書く活動を取り入れていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 1 PBSにより心の安心、安全を確保し、学力向上の環境づくりをする。
- 2 生徒に「なぜ」を考えさせる問いを意識した授業の実施
- 3 AIドリルタイム(週4日×15分)と授業内でのAIドリルの活用
- 4 校内における相互授業観察週間の実施(年2回)
- 5 小中連携による授業研究と統一した授業実践
- 6 管理職、教科指導専門員による授業観察
- 7 夏季休業中の補充教室の実施(1年生は小学校教員と連携)

東島根中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	74.6	65.1	59.9	75.9	76.9	88.0	82.4	63.0	43.7	62.5	53.4	47.1
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	72.0	68.4	66.8	76.7	78.3	90.0	79.5	71.6	47.7	58.7	52.7	54.8
平均正答率(R8)	65.3	57.6	60.3	66.5	59.2	88.9	66.2	58.3	50.4	62.7	54.6	51.6
平均正答率(R7)	70.6	60.7	65.5	68.4	66.3	89.6	75.9	60.0	53.4	68.3	53.2	57.3

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

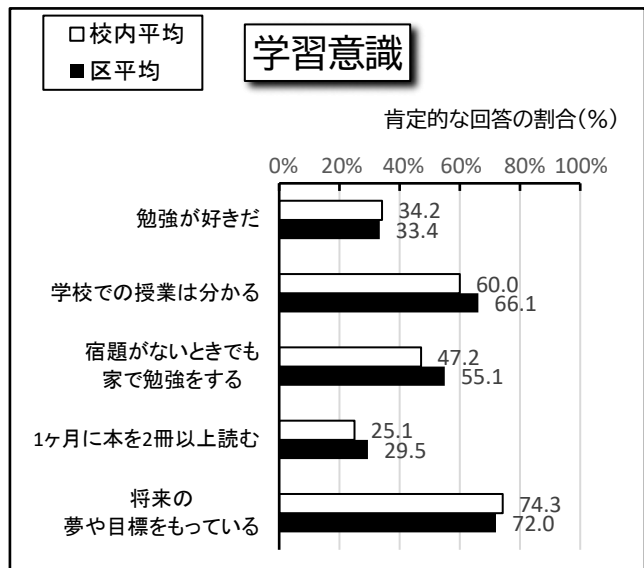
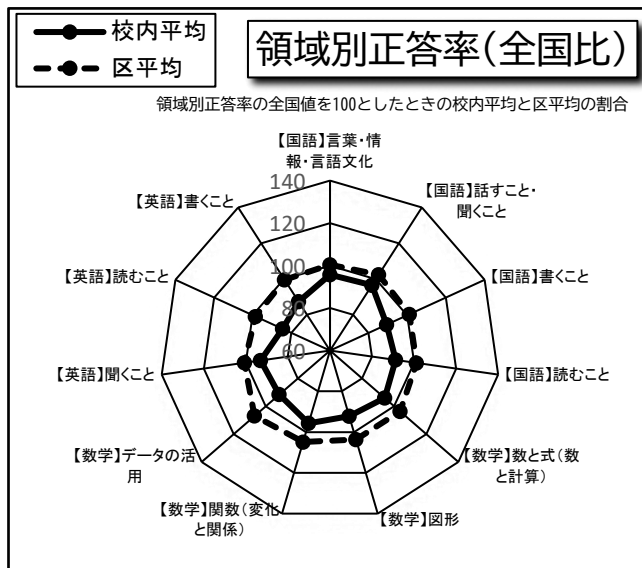
「学習定着度調査」分析結果

- ◆令和8年度の通過率は令和7年度の結果と比べ、学校全体では国語で2.6ポイント上回り、数学で3.3ポイント、英語で6.9ポイント下回った。また、平均正答率は、国語で5.3ポイント、数学で3.1ポイント、英語で5.2ポイント下回った。
- ◆1年生の通過率については、令和8年度はすべての教科で令和7年度の結果を下回った。平均正答率は、国語で1.9ポイント、数学で7.1ポイント、英語で0.7ポイント下回った。
- ◆2年生の通過率については、令和8年度は数学と英語は令和7年度を下回ったが、国語は上回った。平均正答率は、国語で9.7ポイント、数学で1.7ポイント、英語で3.0ポイント下回った。
- ◆3年生の通過率については、令和8年度は英語は令和7年度を下回ったが、国語と数学は上回った。平均正答率は、国語と英語は下回ったが、数学で1.4ポイント上回った。
- ◆今回の分析結果から、国語の通過率は2年生と3年生が上昇傾向にあり、数学の通過率は2年生、英語の通過率は2年生と3年生が下降傾向にある。
領域別正答率では、数学の「データの活用」と、英語の「読むこと」「書くこと」が区平均を下回った。
学習意識では、1ヶ月に本を2冊以上読む割合が区平均を上回った。

学校による学力向上への主な取り組み

- ◆家庭学習の取り組みとして、授業の振り返りを行うために、毎日2ページずつ家庭学習ノートを活用し、できなかった内容の克服や重要ポイントの復習を図る。
- ◆朝補習として、木曜日以外の毎朝、20分間の学力補充教室を全学年で実施する。対象生徒を15人前後に絞り、プリント学習を中心とした授業の復習や演習を行う。
- ◆課題のある単元や領域に対しては、集団指導や習熟度別指導、個別指導とその課題に適した指導方法で改善を図っていく。
- ◆長期休業中の課題として、AIドリルを有効活用する。また、長期休業中の学力補充教室への参加を呼びかけ、国語、数学、英語の3教科を中心に、プリントによる課題やAIドリルを活用した補習を実施して、基礎学力の向上を図る。

澁江中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	65.1	51.2	48.4	57.9	61.4	72.8	77.8	45.9	34.8	60.0	48.6	42.9
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	68.5	62.7	53.1	62.2	60.6	71.3	83.7	68.6	48.1	54.7	56.9	40.9
平均正答率(R8)	61.1	52.0	54.3	57.2	53.6	83.2	61.6	50.0	45.0	63.1	52.2	49.7
平均正答率(R7)	67.5	56.9	58.5	58.9	57.4	84.3	75.7	60.4	51.3	65.5	51.8	51.3

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合〔目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)〕

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合〔正答数÷出題数×100(%)〕)の平均値

「学習定着度調査」分析結果

本校の生徒の「高い意欲」と「学習習慣・理解度の乖離」という明確な特徴がある。学力面では全教科で区平均をやや下回るものの、国語の「言葉」、数学の「関数」、英語の「聞くこと」など基礎や特定領域は結果は悪くない。一方で、国語・英語の「読む・書く」、数学の「データの活用」に課題があり、思考力や長文読解力の強化が必要である。

背景にある意識面では、「将来の夢や目標をもっている(74.3%)」や「勉強が好きだ(34.2%)」の数値が区平均を上回り、生徒の潜在的な意欲は高いと言える。しかし、「学校での授業は分かる(60.0%)」や「宿題がないときでも家で勉強をする(47.2%)」は区平均を大きく下回っている。

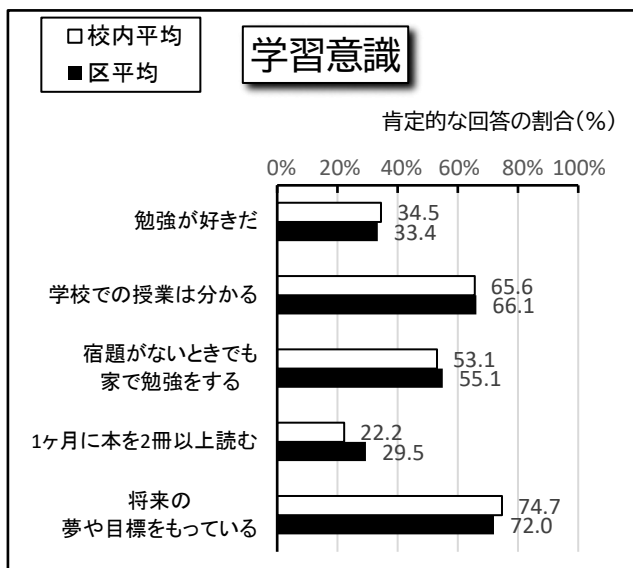
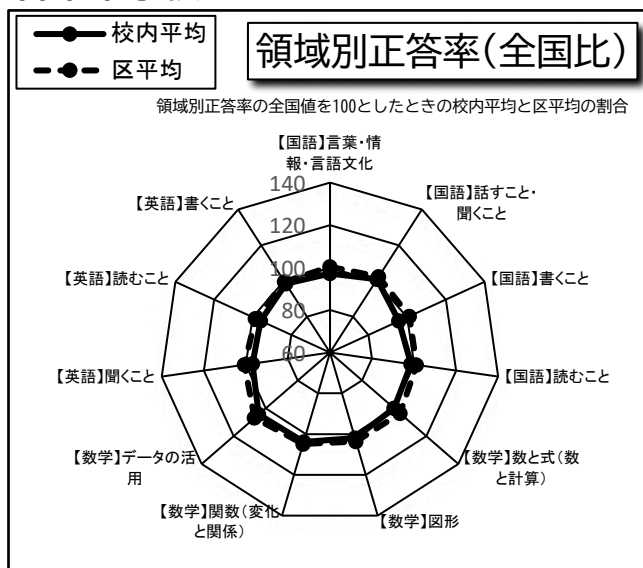
今後は、生徒の意欲を自学自習の習慣化へと結びつけ、すべての土台となる「読解力(読む・書く)」を学校と家庭が連携して底上げしていく必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

学力向上のため、生徒の「高い意欲」を「学習習慣と授業の理解」へ繋げる3つの取り組みをする。第一に、「朝のミニ自習・読書タイム」の設置、時間確保である。週に数回、朝時間の10分間で「前日の授業の振り返り(AIドリル)」や「読書」を行う。家庭での自習習慣が薄い生徒に対し、学校で「宿題以外の自学」を疑似体験させ、課題である「読む力」も同時に養う。第二に、授業内での「ふり返しシート」の導入。授業最後の5分でその日の理解度を言語化させ、教師が即座に回収・確認する。学校で統一した「ふり返しシート」の導入することで、ふり返りの言語化を習慣化させる。「授業が分かる」割合を区平均並みに引き上げるため、躓きを早期に発見し、翌日の指導に反映する。第三に、「データの活用」や「記述」に特化した教科横断型の補習を行う。定期テスト前後などに、苦手領域に絞った補充教室をさらに充実させる。

生徒のポテンシャルの高さを活かし、「小さな成功体験」を積ませる環境づくりを進めている。

谷中中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	68.1	61.0	64.9	70.4	75.7	83.6	75.8	56.3	52.0	57.5	48.4	55.5
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	69.0	60.6	60.1	74.6	73.9	84.1	80.9	60.3	51.5	51.8	47.9	45.1
平均正答率(R8)	63.2	56.6	63.0	64.7	60.4	88.4	62.9	56.4	50.9	61.5	51.8	56.0
平均正答率(R7)	67.1	57.6	61.7	64.6	65.2	89.4	73.0	56.7	52.9	63.7	50.2	53.3

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

【領域別正答率】

- ・ 数学「データの活用」、英語「書くこと」が昨年度より伸びて区平均とほぼ同じになった。
- ・ 国語「書くこと」が区平均を下回っており、授業において「書くこと」を意識した取り組みが必要である。

【学習意識】

- ・ 「宿題がないときでも家で勉強をする」、「1ヶ月に本を2冊以上読む」、「学校での授業は分かる」において区平均を下回っており、生徒の学びに向かう力の育成や教師の授業改善に取り組む必要がある。

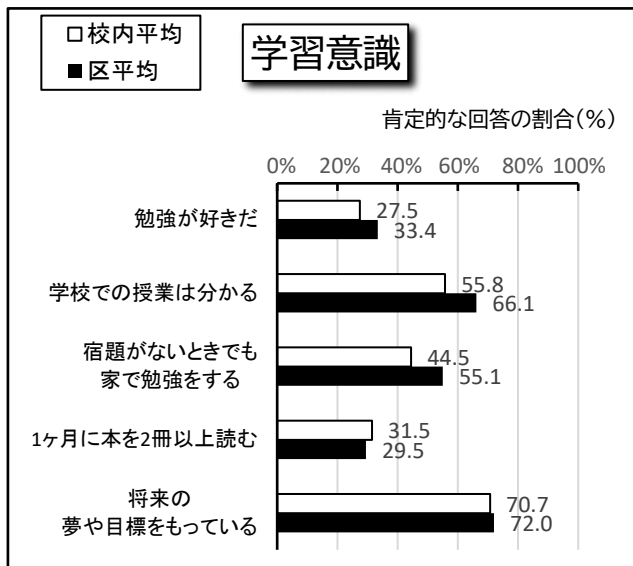
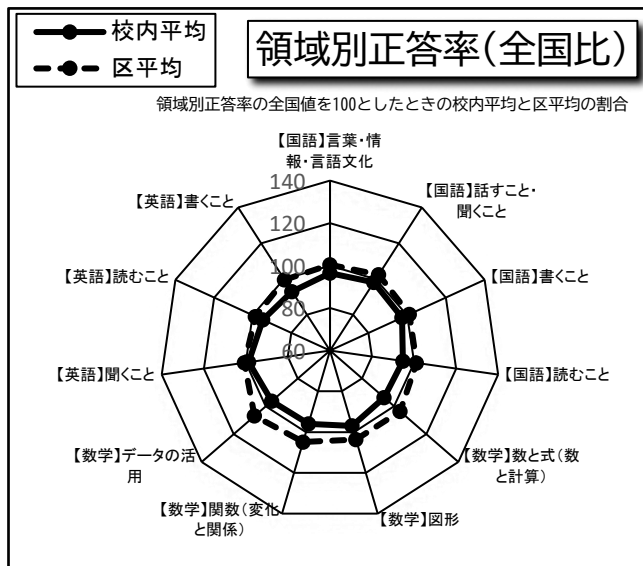
【通過率】

- ・ 学校全体では国語を除いて昨年度を上回り、特に英語は4.8ポイント向上した。
- ・ 1年生では全教科で70%を超えているので、さらに力を伸ばす発展的な学習も必要である。
- ・ 2年生では同一集団の経年変化で数学、英語が大きく低下しており、課題が顕著である。
- ・ 3年生では同一集団の経年変化で国語、数学が低下したが、英語は4ポイント向上した。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・ 授業では足立スタンダードを軸として、自ら学習方法を選択できる複線型授業を展開し、学習者主体の学習をすることで、自ら学習に向かう力を育成する。
- ・ 数学、英語では少人数指導を展開し、生徒一人ひとりの学習機会を確保し、個に応じた指導の充実を図る。
- ・ 家庭学習にA Iドリルを活用し、朝学習、放課後補充教室と連動した取り組みをすることで継続した学習習慣を確立し、基礎学力の向上を図る。
- ・ 国語、数学、英語で学習コンテストを実施し、事前学習や補充教室を充実させ、粘り強く学習に取り組む姿勢を育成する。
- ・ サマースクールにおいて、全学年で数学、英語の特訓教室を設定し、全教員が参加することで個に応じた指導を展開し基礎・基本の定着を図る。
- ・ 区調査結果のS P表分析を教科指導専門員とともにを行い、今後の学習指導に反映する。

六月中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R8)				53.7	48.0	79.3	50.0	51.1	48.4	60.4	50.0	50.2
通過率(R8)	68.5	54.6	60.9	63.6	59.8	77.8	80.7	63.2	55.7	61.2	41.4	50.4
目標値(R7)				53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率(R7)	64.2	54.3	59.8	67.6	65.5	80.6	74.2	56.7	54.2	49.1	38.1	40.4
平均正答率(R8)	62.2	52.5	60.4	61.1	52.2	86.6	67.2	59.9	52.4	58.3	45.9	53.0
平均正答率(R7)	64.5	53.9	61.6	61.7	61.6	86.8	69.7	52.3	54.8	62.6	45.0	49.6

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

(1) 通過率…前年度と比べ、2年、3年は全科目において上昇した。これは、授業改善により、生徒の知識の定着に一定の効果があつたと言える。一方、教科によって通過率の上昇には差があり、2年、3年数学は微増だったためC、D層の学習強化を行う。領域別正答率で分析すると国語は「漢字」と「聞くこと」、英語は「書くこと」、数学は「方程式」と「確率」の領域で区平均よりも大きく下回っているため、基本の問題を重点的に実施し、底上げを図る。

(2) 学習意識…「学びの基礎力」は、全学年通じて多くの項目で区平均を下回る結果となった。特に発表したり相手に自分に関する気持ちを伝えることに課題があり、早急に解決する必要がある。一方でA Iドリルを活用し苦手な問題を解けるようになったという項目は昨年度より大幅に上昇しており、本校で推進しているデジタル学習基盤の活用が表れたと言える。また、不得意なことや苦手なことでも自ら進んで取り組もうとしないという回答した生徒は40%以上であるため、六月中複線型学習スタンダードを用いて、自己解決の経験から達成感をもてるように、より丁寧に授業を進める必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- ①「授業改善」足立スタンダードに沿って「課題の把握→見通し→自力解決→まとめ」の学習過程に沿った問題解決的な授業展開である六月中複線型学習スタンダードを全教科で行う。
- ②「放課後補充教室の活用」区の学力調査や定期考査の結果を踏まえ、教員が補充教室対象生徒を選定し、生徒一人ひとりの苦手な領域に応じた類題に取り組ませる。
- ③「家庭学習の習慣化と充実」毎日の家庭学習の記録をGoogle for スプレッドシートに記入させ、デジタルを活用しながら生徒一人ひとりの学習定着度に応じた課題に取り組ませ、教員がその進捗状況を常に確認できるシステムを構築することで家庭学習の習慣を図る。
- ④「学習委員会を中心とした取組」A Iドリルを活用したA Iドリルウィークや、定期考査の予想問題を作成し、全生徒に配信することで生徒主体の取り組みを図る。
- ⑤「デジタル学習基盤活用による学びの促進」生徒の興味関心や能力・特性に応じて授業の中で生徒自身が選択できるGoogleアプリの活用を進める。教師がデジタル学習基盤の活用方法についてブラッシュアップを図り、さらに学びたくなる授業を展開する。